

第3編（計画編）

～「いわての復興教育」スタートガイド～

3_1**復興教育の視点****「いわての復興教育」スタートガイド****教育内容を見直す
4つの視点****視点ア 教育の目的「ひとづくり」**

・郷土の復興・発展のために自らの力を発揮できる人間の育成

視点イ 体験の教材化

- ・人の命の重さ
- ・家族の大切さ
- ・思いやりの心
- ・人と人との絆
- ・他

**視点ウ 教育内容
指導方法**

- ・防災教育の見直し
- ・心のサポート
- ・ボランティア活動
- ・交流支援(物資・スポーツ・音楽 等)

学校

カリキュラム。マネジメントモデル
(田村知子2005改)

**ア 教育目標の具現化
どんな力を付けるために**

①反映 ②成果

イ カリキュラムのPDCA

どのような教育活動をするのか

C評価

D実施

日常の教育実践

P計画

A改善

⑥影響

③相互関係

④機能

⑤相互関係

⑦機能

⑧機能

⑨機能

⑩機能

⑪働きかけ

⑫働きかけ

⑬働きかけ

⑭働きかけ

⑮働きかけ

⑯働きかけ

⑰働きかけ

⑲働きかけ

⑳働きかけ

㉑働きかけ

㉒働きかけ

㉓働きかけ

㉔働きかけ

㉕働きかけ

㉖働きかけ

㉗働きかけ

㉘働きかけ

㉙働きかけ

㉚働きかけ

㉛働きかけ

㉜働きかけ

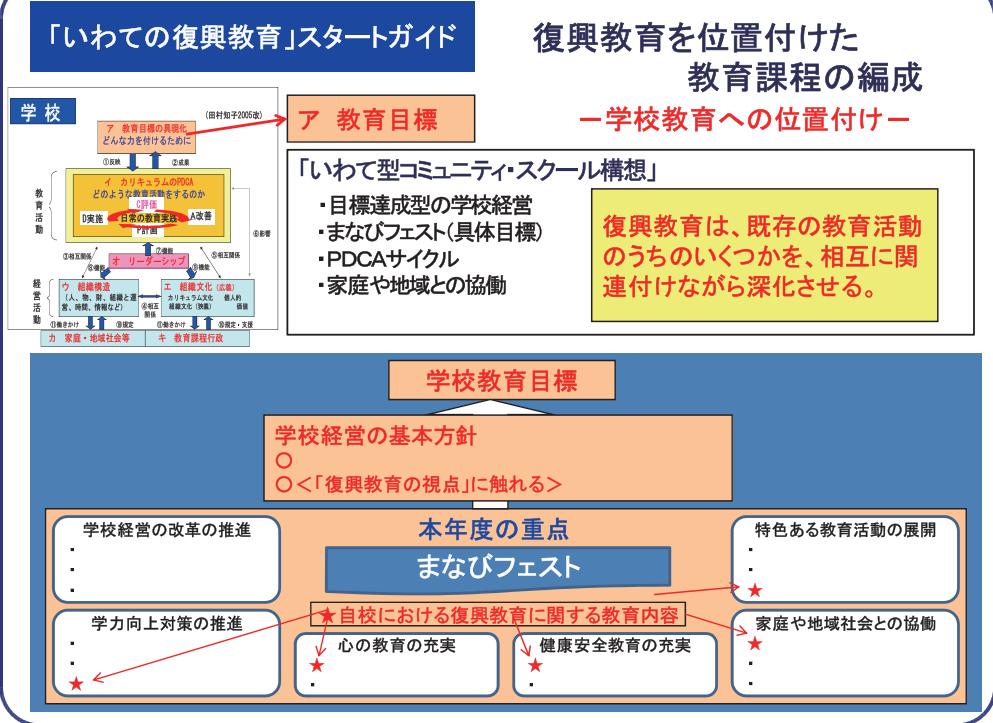
㉝働きかけ

㉞働きかけ

㉟働きかけ

3_2

学校教育への位置付け



学校が組織全体として力を発揮し、課題解決を図り、大きな価値を生み出すためには、学校の基本的な目標を「学校経営計画」として掲げ、所属する教職員が共有するとともに、学校と家庭・地域が一体となって取り組んでいくことが重要である。

現在、各学校においては、「いわて型コミュニティ・スクール構想」として、目標達成型の学校経営に取り組んでいる。学校としての教育目標を基盤に、年度ごとの重点目標を設定し、具体的目標（目指す子どもの姿）として「まなびフェス」を掲げ、その達成に向けて、各校の創意工夫を生かした独自の取組を展開しているところである。

この取組を一層充実していくため、各学校では「何を／いつまでに／どのような手段で／どのような状態にするのか」、その目標を明確にしながら、PDCAサイクルに基づいた点検・評価を行い、改善をより着実に進めていくことが求められる。

復興教育は、基本概念でも示したとおり、各校の教育目標の実現に向けた教育活動全般について、「復興教育の視点」に基づいて教育内容を見直し、再構築した一連の教育活動である。つまり、これまで進めてきた「いわて型コミュニティ・スクール構想」に基づく自校の取組を再構築し、一層の教育効果を図っていくものである。

したがって、学校経営計画の中に単独で位置付くものではなく、既存の教育活動のうちいくつかを、相互に関連付けながら深化させ、復興教育として位置付けることが大切である。

次ページ以降に、小学校、中学校、高等学校の学校経営計画例を示す。

前沢小学校「復興教育」の推進に向けての取り組み

1 復興教育の視点による学校経営計画の見直し

(1) 「教育の目的：ひとづくり」の視点から

「被災地復興支援、県・我町の発展」のための意識と実践的行動力をもった人間の育成

- ・子どもたちに本気で考えさせ取り組ませ、今後5年～10年かけて行う「被災地復興支援、県・我町の発展」に向けての意識と実践的行動力を育成する機会とする。

(2) 「体験の教材化」の視点から

①前沢小学校での地震の体験

- ・「日常生活への感謝」「自然への畏敬の念」についての意識化

②健康被害(放射能)予防の体験

- ・「人の命、家族の大切さ」「自然への畏敬の念」についての意識化

③綾里小学校との交流活動

- ・「人の命、家族の大切さ」「思いやりの心」「人と人との絆」「自然への畏敬の念」「日常生活への感謝」についての意識化

④地域社会での体験活動

- ・「地域社会への感謝・絆づくり」についての意識化

⑤校内における児童会活動・縦割り活動

- ・「思いやりの心」「人と人との絆」「日常生活への感謝」についての意識化

(3) 「教育内容」「教育方法」の視点から

①②防災教育(避難訓練・健康被害予防等)の改善

- ⇒「地震発生」想定訓練の実施時期、被災・児童の状況に応じた内容・方法(登下校時、家庭・地域住民との連携による取組)
- ⇒健康被害予防対策の実施(情報発信、PTA・地域住民との対策委員会発足、除染作業・給食対応等)

③綾里小学校との交流活動の推進

- ⇒子どもたち同士の心の交流の基盤作り「互いに思いやり、学び合う関係の構築」
- ⇒姉妹校に負担をかけない支援の方向性の確認
- ⇒「自分たちなりの姉妹校支援」(児童会活動中心)
- ⇒学習発表会での発信(コーナーを設けて取り組みについて掲示、家庭や地域の方々への情報発信)

④地域社会での体験活動の充実

- ⇒1年：幼小交流会実施
- 2年：明峰支援学校児童との交流、福祉の里まつり参加
- 3年：前沢地区音楽会参加(「メッセージ」「上を向いて歩こう」「この思い、綾里小学校に届け！」)
- 4年：前沢秋祭り参加「前小ソーラン」「岩手を元気に！」老人福祉施設「まえさわ苑」訪問
- 5年：商人体験(「前沢の街を元気に！売り上げを被災地復興へ！」)

⑤校内における児童会活動・縦割り活動の充実

- ⇒6年：児童会、縦割り活動推進(「綾里小学校と仲良くなろう、わいわいランチ、なわとび大会」)
- ⇒節電等のエコ運動、ボランティア活動の推進

(4) 「学校経営への位置付け」の視点から

① 復興教育の構成要素をもとに、月毎のキャリア教育・ボランティア教育、児童会指導計画等の見直し

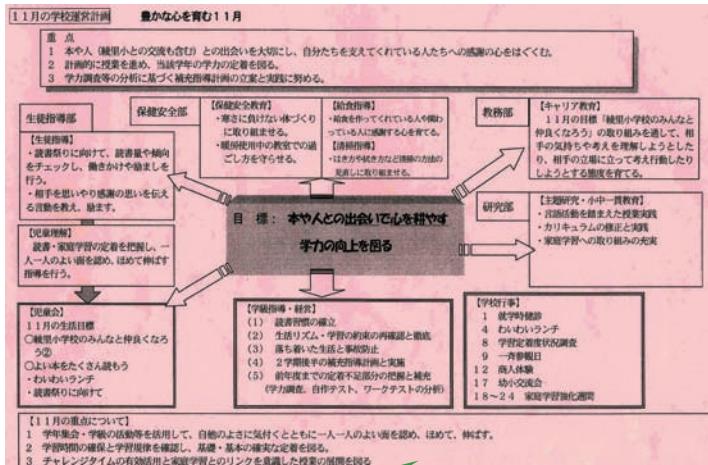
【復興教育を構成する主な要素】

- ①防災教育 ②キャリア教育 ③健康教育・心のケア ④道徳教育 ⑤ボランティア教育
- ⑥地域との交流 ⑦他地区との交流、学校間交流 ⑧各教科指導

②「姉妹校交流」「被災地復興」「我町の発展」の意識化、「学校の縦割り活動や地域の様々な人とかかわる活動」を大切にした活動の推進

(※ :復興教育の「三つの柱」)

1 復興教育の視点を取り入れた「11月の学校運営計画」、「11月のキャリア教育計画」例



◆教務部【キャリア教育】の目標に基づき、全学年ともに、「綾里小学校と仲良くしよう」の取り組みを通して「豊かな人間性」を育てることとしている。

H23年度		11月のキャリア教育	
1年生	「豊かな心を育む11月」となって、綾里小学校となくなりました。豊かな心を育むことをめざして、仲良くなろうとする活動を行なう。	3年生	「豊かな心を育む11月」となって、綾里小学校となくなりました。豊かな心を育むことをめざして、仲良くなろうとする活動を行なう。
2年生	「豊かな心を育む11月」となって、綾里小学校となくなりました。豊かな心を育むことをめざして、仲良くなろうとする活動を行なう。	4年生	「豊かな心を育む11月」となって、綾里小学校となくなりました。豊かな心を育むことをめざして、仲良くなろうとする活動を行なう。
5年生	「豊かな心を育む11月」となって、綾里小学校となくなりました。豊かな心を育むことをめざして、仲良くなろうとする活動を行なう。	6年生	「豊かな心を育む11月」となって、綾里小学校となくなりました。豊かな心を育むことをめざして、仲良くなろうとする活動を行なう。
7年生	「豊かな心を育む11月」となって、綾里小学校となくなりました。豊かな心を育むことをめざして、仲良くなろうとする活動を行なう。	8年生	「豊かな心を育む11月」となって、綾里小学校となくなりました。豊かな心を育むことをめざして、仲良くなろうとする活動を行なう。

【児童会】生活目標のひとつに「綾里小学校と仲よくなろう②」を設定する。縦割り班での「わいわいランチ」を行う。

【学校行事】全校縦割り「わいわいランチ」、5年「商人体験」(地域での交流活動)、1年「幼少交流会」(園児を招く)

平成24年度 奥州市立前沢小学校キャリア教育全体計画

学校教育目標「めざす子ども像」

人間尊重の心に満ち、自分で考え、心豊かでたくましく実行する子ども

考える子

- 基礎的・基本的事項をしっかりと身に付けた子ども
- 話をよく聞き、自分の考え方もち、相手に分かりやすく発表できる子ども
- 学習意欲と学習習慣を身に付けた子ども
- 家庭学習や読書に進んで取り組む子ども

心豊かな子

- 周りの人と気持ちよく挨拶のできる子ども
- 普段を正しく判断し、適切に行動できる子ども
- 場にふさわしいマナーを身に付けた子ども
- 周りの人と思いやりをもってかかわることのできる子ども

たくましい子

- 自分の身の安全を自分で守ることができる子ども
- 「早寝・早起き・朝ごはん」等の生活リズムをしっかりと身に付けた子ども
- 最期までねばり強く取り組む子ども
- 働くことをいとわず、進んで働きみんなのために尽くそうとする子ども

キャリア教育の目的（復興教育の視点からの「生きる力」の育成）

- 児童生徒が自らの将来において自己実現を図り、主体的な生き方ができるよう適切な価値観や能力・態度を育成すること
- 「復興」をテーマにしたキャリア教育での育てたい資質・能力
- 被災地復興支援、県・我町の発展に向けての意識と実践的行動力
- 身近な人の絆や思いやりの心を大切にする態度や実践的行動力
- 自然への畏敬の念を持ち、自らの命を災害から守る意識と実践的行動力

児童の実態

- ・学級・学年を越え誰とでも思いやりをもって接する。
- ・危険な状況から自分を守る力が十分ではない。
- ・困難なことに最後までやり抜こうとする気持ちが弱い。
- 家庭の実態

 - ・教育的関心（特に健康面）が高く学校に協力的である。
 - ・地域環境・人材が豊かである。

「復興教育」の視点を取り入れたキャリア教育

①「教育の目的：ひとづくり」の視点から
「被災地復興支援、県・我町の発展」のための意識と実践的行動力をもった人間の育成

②「体験の教材化」の視点
③「教育内容・教育方法」の視点
④「学校経営への位置付け」の視点

【「体験の教材化」の視点から】

- ①前沢小学校での震災の体験
- ②健康被害（放射能）予防の体験
- ③綾里小学校との交流活動
- ④地域社会での体験活動
- ⑤校内における児童会活動・縦割り活動

【「教育内容・教育方法」の視点から】

- ①②防災教育（避難訓練・健康被害予防等）の改善
- ③綾里小学校との交流活動の推進
- ④地域社会での体験活動の充実
- ⑤校内における児童会活動・縦割り活動の充実

ねらい 「復興」をテーマとするキャリア教育のねらい・指導目標

ねらい 「復興」をテーマとするキャリア教育のねらい・指導目標				
<ul style="list-style-type: none"> ●一人一人のキャリア発達への支援（復興への意識） ●身の回りの仕事や環境への関心・意欲の高揚と学習意欲の向上 ●職業人としての資質や能力の向上 ●自立意識の涵養と豊かな人間性の育成（復興への意識） 				
育みたい能力 指導目標	人間関係能力	勤労や職業への理解・意欲	将来設計能力	
	<ul style="list-style-type: none"> ●自分や友達・家族・地域の人、自分とかわりをもった人たちのよさを理解し認め、豊かな人間関係を築こうとする力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●集団生活における役割や自己の責任、日常の仕事や他の人のために働くことの価値について理解し、意欲の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●県や我町の復興・発展も含め、将来への夢や希望を醸成し、自らの豊かな人生設計へのイメージを形成させる。情報活用の力を育てる。 	
	低学年	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活の仕方を身に付けることや友達と一緒に活動できる。 ○自分の得意なことを表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○当番や係、その他身の回りの様々な仕事があることやその大切さに気付き、やり遂げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活の中で好きなことを見つけ興味を広げることができる。 ○要点をとらえた話の聞き方ができる。
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や友達（本校・姉妹校）のよさに気付く・協力して物事に取り組むことができる。 ○自分の考えをもち、発表できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りには様々な仕事があることに気付くとともに、自らの仕事に積極的にかかわることができる。 ○職業について関心をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○夢や希望を影らませながら、自らの将来について考えることができる。 ○図書活用やインターネット活動等により必要な情報を得ることができる。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○友達（本校・姉妹校）と意見交換し、理解し合いながら、協力して物事に取り組むことができる。 ○リーダーとしてみんなの○自身の生き方に关心をもてる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○県や我町の復興・発展も意識しながら自分の役割を知り、校内のリーダーとして進んで責任を果たせる。 ○様々な職業への理解を深め、働くことの意義や大切さに気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の憧れの職業をもち、学習することや将来について考える大切さに気付くことができる。 ○資料収集の方法を身に付け活用できる。 	

各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等におけるキャリア教育の指導内容

各教科	道徳	特別活動			総合的な学習の時間	日常生活における諸活動
		学級活動	学校行事	児童会・クラブ		
<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決的な学び方の習得 ○科学的観察・判断力、災害発生のメカニズムと防災の知識理解 ○学習事項の生活画面や将来の生き方への適用 ○被災地復興支援や生活を支える周囲の人々の仕事や役割 ○人生に対する考え方や生き方 	<ul style="list-style-type: none"> ○生命的の尊重、人格尊重の精神の育成 ○自主性、ボランティア精神、やさしさや思いやりの心 ○生活を支える人々の役割の理解と感謝 ○働くことの意義の理解と責任感 ○目標に向かい主体的に努力する態度や希望をもって生きる心 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的な備え、災害時の安全確保(2) ○希望や目標をもつて生きる態度の形成 ○望ましい人間関係の育成(1) ○問題発生時の的確な判断・実践的行動力(2) ○生活を支える役割の理解と責任の遂行 ○主体的なコミュニケーション活動(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標の実現に向けた努力の蓄積と充実感 ○集団活動を支える役割の理解 ○勤労や生産活動の喜びの感得 ○集団行動における望ましい態度形成（運動会・学習発表会・地区陸上記録会・音楽会等） ○自己の興味・関心の追求（クラブ活動等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○綾里小学校との交流活動の推進 ○役割や責任を果たす意識と充実感（委員会活動等） ○異年齢間の交流（縦割り活動・スポーツ集会等） ○自己のよりよい生き方を考える場 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら学び、自ら考える、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力 ○綾里・我町の復興・発展を目指す地域での交流活動（商人群体・前沢祭り参加・福祉の里祭り・まえさわ児童訪問等） ○自己のよりよい生き方を考える場 ○地域の自然・社会環境についての理解 	
学級・学年・特別活動		キャリア教育についての基礎知識			PTA及び地域の諸施設・施設間との連携（消防署・放課後教室等）	地域の諸行事・環境等を生かした教材・教材開発・人材活用・指導の連携・地域への発信
学級・学年・特別活動		キャリア教育についての基礎知識			PTA及び地域の諸施設・施設間との連携（消防署・放課後教室等）	地域の諸行事・環境等を生かした教材・教材開発・人材活用・指導の連携・地域への発信
学級・学年・特別活動		キャリア教育についての基礎知識			PTA及び地域の諸施設・施設間との連携（消防署・放課後教室等）	地域の諸行事・環境等を生かした教材・教材開発・人材活用・指導の連携・地域への発信

学校経営計画における復興教育の位置付け

1 目標

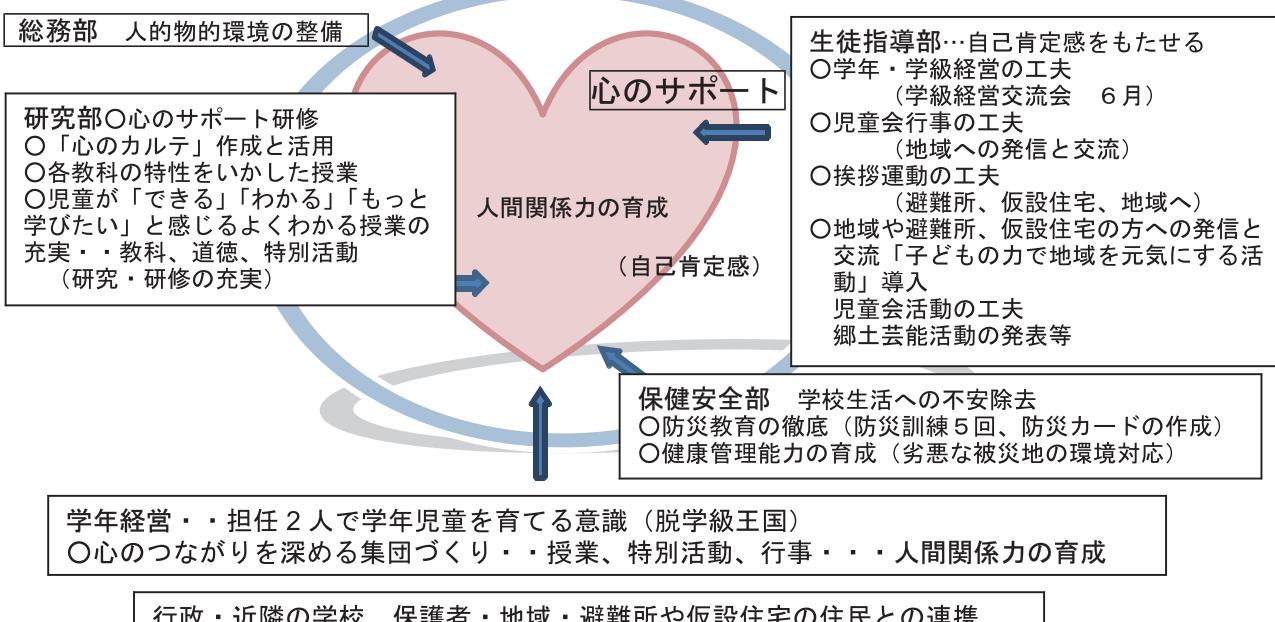
- (1) 学校教育全体の中で復興への意欲を高め、児童一人一人が夢や希望を持ち続けていくとする気持ちを育てる。

2 復興教育の位置づけ

★心のサポートを経営の中心に据え、各分掌が横断的・組織的に課題解決をしていく。

＜山田南小学校心のサポート基本構想と復興教育＞ 23.4. 校長

教務部 自己存在感や心のつながりを感じる行事や時程の工夫
各教科・総合的な学習の時間・外国語活動・道徳・特別活動における位置づけ



3 実践

- (1) 授業の充実 「わかる できる もっと学びたい 授業」
(習熟度、TT授業、個別指導等の実施)
- (2) 心のケア 4月～こころのカルテ 個人面談の実施、教育相談
- (3) 意図的実践 「子どもの力で山田に元気をあたえよう」をテーマにしている。

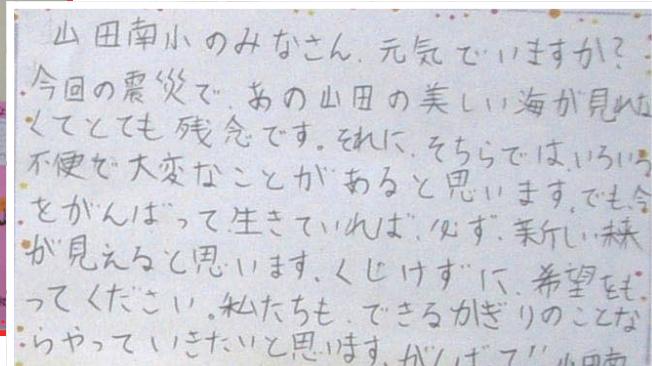
学年等	関連教科等	内 容	時 期	ね ら い	対 象
全校	行事	防災訓練（大津波警報、授業中、休み時間、地震・火事、不審者）	5.7.9. 11月	安全・安心の気持ちで学校生活を送ることができるようにする。	児童
全校	児童会行事	みなみっ子スポーツフェスティバル	6月	絆を深める団体競技や応援合戦	避難所、地域、保護者
全校	特別活動	虎舞発表会	7月	感謝の気持ちを地域、保護者、仮設住宅の皆さんに演奏で伝える。	避難所、地域、保護者
全校	児童会	あいさつ運動	4月～	避難所や仮設住宅の方学校の仲間と心のつながりをつくる。	避難所、地域、保護者
全校	道徳	道徳地区公開講座で「生命の尊重」に関わる価値項目で全校公開	10月	震災後の生き方について「命の尊さ」を通し	保護者、地区、仮設

第3編－2学校教育への位置付け

学年等	関連教科等	内 容	時 期	ね ら い	対 象
全校	行事 国語、音楽	創立30周年学習発表会 全校群読「おまつり」と合唱	11月	30周年を祝い、山田への思いを地域、保護者、仮設住宅の皆さんに感謝の気持ちを伝える。	避難所、地域、保護者
5・6年	特別活動	鼓笛パレード	10月	感謝の気持ちを地域、保護者、仮設住宅の皆さんに演奏で伝える。	地域・保護者・仮設
2年	国語	避難所での音読発表（朝学習時間）	6月	避難所の皆さんに音読を聞いてもらい元気にならう。	避難所
2年	生活科	支援物資の配達	8～11月	仮設住宅の方々へ支援物資を届ける。	仮設住宅
3年	総合・行事	劇おまつり戦士ヤマダー「山田を守れ」	11月 学習発表会	やまだのまつりのおこりについて神主さんから学び、劇で発表	地域・保護者・仮設
3年	総合	支援物資の配達	8月	仮設住宅の皆さんに支援物資を届ける。	
4年	総合的な学習の時間	やさしさをとどけよう	12月	地域の老人施設を訪問し、元気を届ける。	平安荘の方々
5年	総合・行事	劇「よみがえれ、山田」インタビュー+調べる活動	11月 学習発表会	フィールドワークや調べる活動を通し、山田の復興を劇で表現	地域・保護者・仮設
5年	総合・行事	自然教室、附馬牛小との交流	8月	支援をいただき、自然教室ができたことの御礼の交流会	交流校の友達
6年	総合	仮設住宅の皆さんをご招待	9月	仮設の皆さんに寸劇・合奏を披露 お茶サービス、マッサージつき	仮設住宅の皆さん
6年	総合、行事	修学旅行「感謝を伝える旅」	10月	感謝の気持ちと元気の姿の虎舞を演技で伝える。	宿泊場所とイオン
昨年の6年	行事	卒業式で避難所の皆さんに合唱を披露	3月	感謝の気持ちと卒業の喜びを表現する。	避難所、保護者
環境福祉委員会	委員会	避難所の皆さんの肩たたきプレゼント	7月	避難所の皆さんの疲れを取ってあげたいとの発想から実施	避難所
環境福祉委員会	委員会	学校と仮設住宅の間に置いたブランクターへの花育て活動	6月～	仮設住宅の皆さん的心を元気にする。	仮設住宅



『学校間交流』
—山田町立山田南小学校・遠野市立附馬牛小学校—



【大槌高等学校の災害時における生徒指導課の取り組み】

1 はじめに

大槌町が甚大な被害を受けた中で、学校としては、「大槌高校から元気を発信する」というスローガンを決定した。そのスローガンの実現のために生徒指導課がしていかなければいけないことを確認した。学校が活性化するためには、生徒ひとりひとりが震災による困難に負けず、それぞれの目標の実現のため、充実した学校生活が送れないと実感できることが大事だと考えた。そのために、生徒指導課として他分掌や外部の機関と連携しながら行った指導や補助についてまとめた。

2 取組の概要

(1) 学校行事

4月20日の始業式に向けて、学校行事の検討を行った。生徒指導課としては通常行っている学校行事はすべて実施し、日程の変更のみをお願いした。授業日が減少し、避難所となっている中で、全ての行事の実施は難しいとの意見もあったが、生徒が活躍できる場を提供することが大事と考えたからである。

日程上大きく変更したものはクラスマッチの開催時期であった。例年6月に行われているが、8月下旬に移動した。4月の時点で第一体育館にはまだ270名ほどの避難者と、グランドには自衛隊の車両があり、仮設住宅の完成も7月以降になると言われていたからである。

クラスマッチでは、例年すべてのクラスでTシャツを作成していたが、被災した生徒に配慮して作らないように指導した。一部生徒から「思い出だから作りたい」、「団結が深まるのに」「被災した生徒の分は被災しなかった生徒が負担すればよい」等の声が聞かれた。生徒指導課で担任と連携して説明をして、納得させてクラスTシャツ作成は思いとどまらせた。当日は保護者にも来校を呼びかけ、生徒の生き生きと活動する姿を見せることができた。

震災以降、全国の学校から支援があり、生徒指導課としてはそれらの支援を紹介し、学校行事に取り入れる試みも行っている。例えば文化祭では、長野県の茅野高校や岡山県の高岡南高校等が文化祭でバザーを行った利益を義援金として送ってくれた。また茅野高校は夏休み中に生徒会執行部が3名来校し、本校生徒会との交流を持った。その際には文化祭での様子や本校に対してのメッセージを撮影したDVDをいただいた。その他にも多くの学校からメッセージ等をいただき生徒会および文化祭実行委員で「～広げよう！！笑顔でつながる大槌の和～」というテーマを作成した。「今年は全国の皆さんの支援があつての学校行事」という指導をしながら、文化祭をはじめとした学校行事を感謝の意味をこめた形にしていこうと考えている。

(2) 安全指導

津波により大槌や釜石のインフラが破壊されたため、生徒の登下校の安全確保はかなり困難な状況にある。それでもできる限りの安全対策をということで、始業式には支援物資であった防犯ブザーを生徒に配付した。被災した自転車通学の生徒には、県や町から寄贈された自転車を74台配付した。さらに日本赤十字社から懐中電灯が寄付され、これは全校生徒に配付した。

被災地復興のため大型車両が多数往来し、支援のために全国各地からボランティアの方が来町されている。ありがたいことではあるが、大型車両や慣れない道を運転している車両のそばを生徒が登下校していることを考えると安心はできない。生徒指導課としては釜石警察署や町役場と連絡を密にし、危険箇所を把握し、校内でアナウンスしたり、自転車点検を行ったりするなど最大限の安全確保のために取り組んでいる。

一方で道路等の復旧がすむまで、学校だけでの安全確保は難しい状況にある。大槌町内はバスの本数も限られ、冬の道路の凍結も心配される。冬道の安全確保と被災生徒の負担軽減のため、本数の増便等を検討・依頼していきたいと考えている。



写真1 クラスマッチの風景

(3) 制服

多くの生徒が家を無くし、制服業者の店舗も流失してしまった中での制服をどうするかという問題があった。生徒指導課を中心に話し合った結果、大槌高校生としてのアイデンティティを確保するために制服は整備した方が良いという方針は決定した。財源の確保が課題であったが、震災当初から本校に来てボランティア活動を行ってきたAMDAから制服提供の申し入れがあり、最終的には新入生分と新2・3年生の被災生徒分は無償で配付できることとなった。冬服については5月25日(水)に、夏服は6月3日(金)の生徒配布となった。夏服配布の関係もあり、衣替えを6月6日(月)からに変更した。最終的に全校生徒がそろった制服になったのがこの日からとなる。頭髪についても、「全国から支援を受けている生徒の整容はどうあるべきか」、「大槌高校が大槌町復興の原動力になっていくためにはどんな生徒が望ましいか」を全校集会等のたびごとに生徒に考えさせた。担任・各学年の協力のおかげもあり、6月以降の整容指導で目立った服装の乱れは見られなかった。今後も整容についての指導は継続していきたい。

(4) 部活動

校舎が避難所となり、学校再開が遅れたことで3年生にとっては高校生活最後の高総体に向けての活動に出遅れた形となった。しかも活動できる場所と時間が限られた。高総体まで使用できたのは、第二体育館とグランドの一部、そしてテニスコートであった。体育館で部活動を行っていた部はローテーションを組んで平等に活動ができるようにし、サッカーチームと野球部はテニスコートでの活動となった。ローテーションの関係で本来の活動場所を使用できないときは、廊下や階段での活動となつた。避難者が多かったころは、高齢者や幼い子どもが多く、部活動を騒音に感じないだろうかと心配もされた。しかし多くの避難者の方は温かい目で見守ってくださり「がんばってね」、「県大会で活躍して来いよ」等の声を生徒にかけてくださったりもした。生徒もその声を励みに頑張ったようである。

活動時間は下校のバスの関係で午後6時までにすることを生徒指導課で定めた。「それでは十分な活動ができない」等いろいろと意見はあったが、街灯もなく暗い中生徒を帰すには安全性の面で不安があったからである。充実した学校生活のためには部活動が重要であると生徒指導課としては考えている。今後は新人戦を迎えるが、部活動にとっては練習時間が十分にとれないこと、教職員が震災対応に追われ、十分な指導ができないことも問題点としてあげられる。また、部活動にかかる経費の補助も生徒指導課としては頭の痛い問題である。家計状況が急変したため、入学金の免除申請をした生徒が約40名いる。現在、部活動遠征費については生徒後援費と義援金から補助を出している。

(4) 外部交流

震災以来多くの高校・団体から声援と支援をいただいた。現在も毎日のように申し出があり、今年の2学年の修学旅行は愛媛県の全額負担により愛媛方面への旅行になるなど大変ありがたい状況にある一方で、生徒指導課としては、震災からの復興の第一段階が日常を取り戻すことだと考えており、日常生活とかけ離れた状況になる交流支援については極力制限するようにしている。

3 取組を終えて

「生徒指導課の取り組み」と題したが、震災発生から7か月間、大槌高校が頑張ってこられたのは生徒指導課のみならず、他分掌や町の方々、県や警察などの支援があったからである。本校のみならず、沿岸の多くの学校が被害を受け現在もさまざまな課題を抱えている現状にあるが、今後も震災からの復興に向けて各方面と連携しながら生徒指導課に与えられた役割を果たしていきたいと考えている。



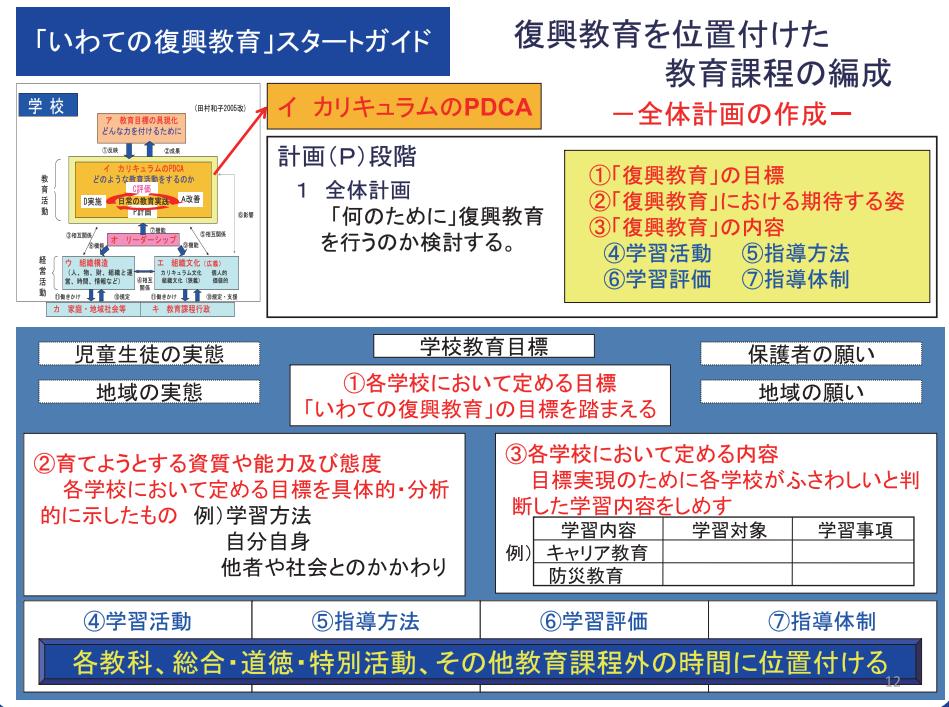
写真2 大高祭テーマ 垂れ幕



写真3 4月20日のグランド風景

3_3

全体計画の基本的な考え方

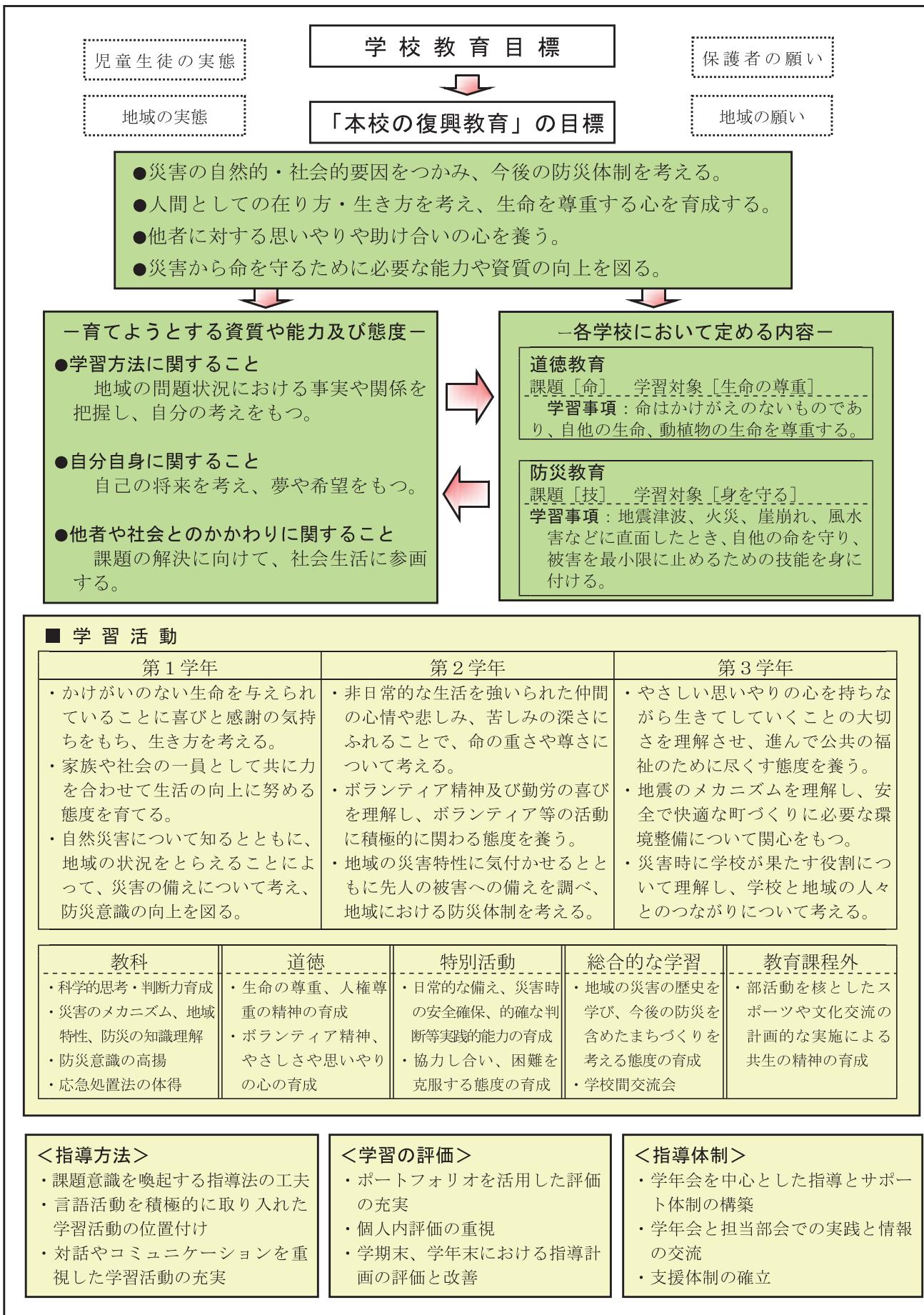


学校として復興教育に意図的・計画的に取り組んでいくためには、復興教育に対する学校としての基本的な考え方を示した実践のための全体計画が必要となる。

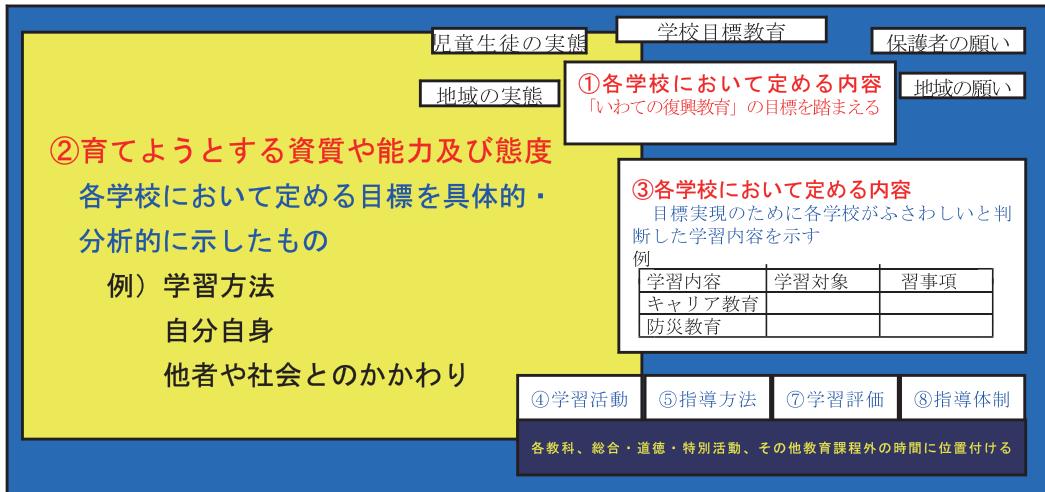
各学校において全体計画を作成することの意味は、復興教育の目標を、各学校の日々の実践として具体化するところにある。

全体計画を作成するに当たっては、「何のために復興教育を進めるのか」を念頭に、復興教育を構築する視点から、次の7つの要素について考える必要がある。

- ①復興教育を通して、その実現を目指す「目標」
- ②目標を実際の学習活動へと実践化するために、より具体的・分析的に示した「育てようとする資質や能力及び態度」
- ③「目標」の実現にふさわしいと各学校が判断した学習課題からなる「内容」。この内容を定めるには、学習対象や学習事項等によって、学習課題を具体的・分析的に示すことが考えられる。
- ④「内容」とのかかわりにおいて実際に児童生徒が行う「学習活動」。これは、実際の指導計画においては、児童生徒にとって意味のある問題の解決のまとめとしての「単元」、さらにそれらを配列し、組織した「年間指導計画」として示される。
- ⑤「学習活動」を適切に実施する際に必要とされる「指導方法」
- ⑥「学習評価」。これは、児童生徒の学習状況の評価、教師の学習指導の評価、①～⑤の適切さを吟味する指導計画の評価が含まれる。
- ⑦①～⑥の計画、実施を適切に推進するための「指導体制」



②「育てようとする資質能力」について



育てようとする資質や能力及び態度には、各学校の目標が実現された際に現れる望ましい児童生徒の成長の姿が示されることになる。

各学校において定める目標と、育てようとする資質や能力及び態度の2つにより、この時間の教育活動を通して「どんな児童生徒を育てたいか」を明示することになる。

①学習方法に関すること

児童生徒が復興教育の学習を主体的、創造的に進めていくために必要な資質や能力及び態度に関する視点

②自分自身に関すること

児童生徒と自身の生活や行為の在り方、あるいは自己理解や自己省察に必要な資質や能力及び態度に関する視点

③他者や社会とのかかわりに関するこ

他者との協同や社会とのかかわりに必要な資質や能力及び態度に関する視点

※参考：OECDが示した主要能力（キー・コンピテンシー）に符合

- ・主要能力— OECDが、これからの中知識基盤社会の時代を担う児童生徒に必要な能力として示したもの

【キー・コンピテンシー】

- ①「社会、文化的、技術的ツールを、相互作用的に活用する力」
＜学習方法に関するこ＞に対応
- ②「自律的に行動する能力」
＜自分自身に関するこ＞に対応
- ③「多様な社会グループにおける人間関係形成能力」
＜他者や社会とのかかわりに関するこ＞に対応

視点	小学校	中学校	高等学校
学習方法に関すること	課題設定 ・問題状況の中から課題を発見し、設定する。 ・解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる。	複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する。 ・仮説を立てて、検証方法を考え、計画を立案する。	複雑な問題状況を踏まえて適切な課題を設定する。 ・仮説を立てて、それに適合した検証方法を明示した計画を立案する。
	収集分析 ・必要な情報を収集し分析する ・手段を選択し、情報を収集する。	目的に応じて手段を選択し、情報を収集する。 ・必要な情報を収集し、多角的に分析する。	目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集する。 ・必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的・実際的に分析する。
	思考判断 ・問題状況における事実や関係を把握し理解する。 ・多様な情報の中にある特徴を見付ける。 ・課題解決を目指して事象を比較したり、関連付けたりして考える。	複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもつ。 ・視点を定めて多様な情報を分析する。 ・課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える。	複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する。 ・視点を定め多様な情報から帰納的・演繹的に考察する。 ・事象や事象間の関係を比較したり、複数の因果関係を推理したりして考える。
	将来展望 ・相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現する。 ・学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする。	相手や目的、意図に応じて、論理的に表現する。 ・学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする。	相手や目的、意図に応じて、手際よく論理的に表現する。 ・学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かそうとする。
自分自身に関すること	意思決定 ・自らの行為について意思決定する。	自らの行為について責任をもって意思決定する。	自らの行為について当事者意識と責任感を持って意思決定する。
	計画実行 ・目標を設定し、課題の解決に向けて行動する。	目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する。	目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に確実に行動する。
	自己理解 ・自らの生活の在り方を見直し、実践する。	自らの生活の在り方を見直し、日常的に実践する。	自らの生活の在り方を見直し、改善に向けて日常的に実践する。
	将来展望 ・自己の将来を考え、夢や希望をもつ。	自己の将来を考え、夢や希望をもつ。	自己の将来について具体的に考え、夢や希望をもつ。
関他する者や社会とのかかわりに	他者理解 ・異なる意見や他者の考え方を受け入れる。	異なる意見や他者の考え方を受け入れ尊重する。	異なる意見や他者の考え方を受け入れ、尊重し理解しようとする。
	協同 ・他者と協同して課題を解決する。	互いの特徴を生かし、共同して課題を解決する。	互いを認め特長を生かしあい、協同して課題を解決する。
	共生 ・身の回りの環境とのかかわりを考えて生活する。	環境の保全を考えて行動する。	環境の保全について主体的、協同的に行動する。
	社会参画 ・課題の解決に向けて地域の活動に参加する。	課題の解決に向けて社会生活に参画する。	課題の解決に向けて多様な社会活動に当事者意識をもって参画する。

育てようとする資質や能力及び態度の例

③「各学校において定める内容」について



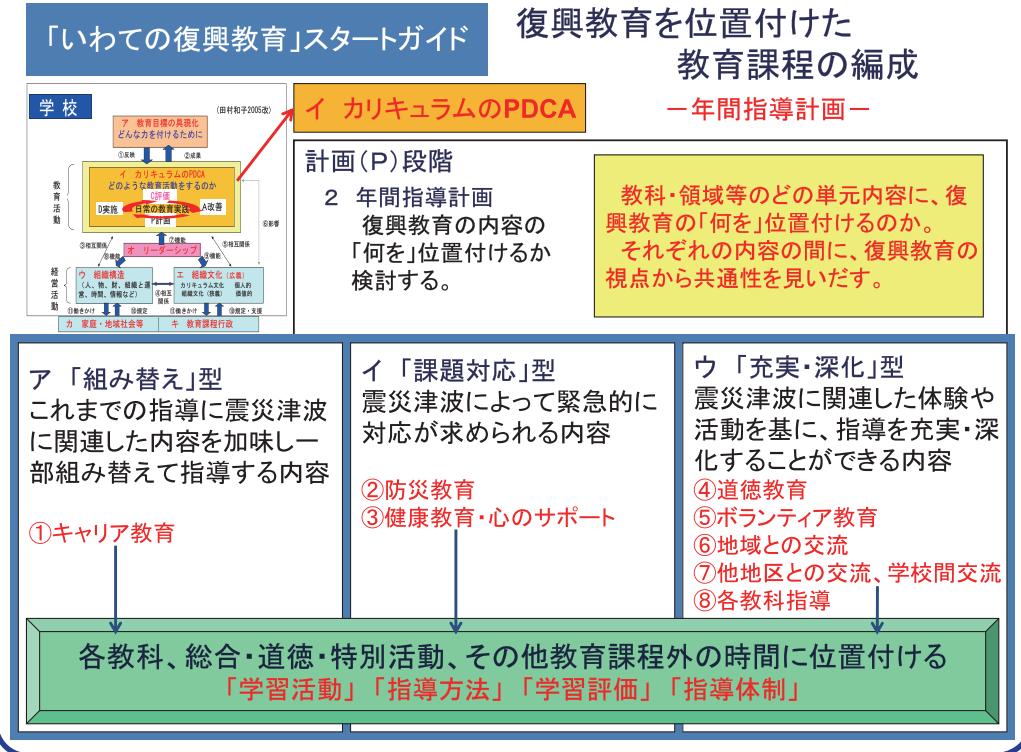
復興教育においては、教育内容として、キャリア教育、防災教育、健康教育・心のケア、道徳教育、ボランティア教育、地域との交流、他地区との交流、学校等間の交流、各教科指導を例示している。これらの教育内容における要件としては、次の2つが考えられる。

- ①人としての生き方、自らの在り方を考える態度
- ②自らを守り、他者を支えるために身に付けさせたい知識・技能

この要件を基にした教育内容の構成は、学習課題・学習対象・学習事項から成り立っている。各学校においては、教育内容として、目標の実現のためにふさわしいと判断した学習課題を定める必要がある。この学習課題とは、例えば、「命」「絆」「自然」「社会」「技」などの課題が考えられる。学習対象とは、児童生徒がかかわりを深めていく「ひと」「もの」「こと」などを示したものであり、課題をさらに具体化したものである。さらに、学習対象とのかかわりを通して学ぶことが期待される学習事項等によって、学習課題を具体的に示すことが考えられる。各学校においては、学習対象を明らかにするとともに、必要に応じて学習事項等を定めることが考えられる。

「いわての復興教育」の内容にかかる学習課題・学習対象・学習事項一覧（試案）

課題	No	学習対象	学習事項
命	① ② ③	生命の尊さ 生きていることのすばらしさ 生きることの希望・夢・たくましさ	命はかけがいのないものであり、自他の生命、動植物の生命を尊重する。 生きていることのすばらしさを感じ、自然を敬愛し、自然と共に生きていく強い意志と態度を養う。 どんなつらいことや苦しいことにも負けず、希望と夢をもち、たくましく生きていく強い意志と態度を養う。
絆	④	家族	家族の愛情、生きていくための生活の基盤としての家族の絆を大切にし、家族の一員として自分の役割を自覚し、進んで行動できるようにする。
	⑤	友情	心を開いて話のできる友達、助け合いや励まし合いのできる友達づくり、友情を大切にする態度を養う。
	⑥	地域	地域には様々な立場の人が共に生活していることや、自分の生活が地域社会との関わりの中で成り立っていることに気付き、地域の一員として積極的にかかわろうとする態度を養う。
	⑦	郷土	郷土に愛情と誇りをもち、美しい自然、伝統行事・芸能、温かい人のつながりのある社会、安全な街を願い、未来の担い手として、県づくりやまちづくりに関心をもつことができる。
	⑧	感謝	自分の成長や生活が、周囲の多くの人々の支えで成り立っていることに気付き、その人々の心情や行動に対して感謝の気持ちをもつことができるようになる。
	⑨	共感・支え合い	被災地の人々との共感的な理解を図り、思いやりの気持ちをもって、共に支え合いながら生きていくこうとする態度を育てる。
	⑩	ボランティア	人と社会のために役立つことを自分から進んで実践し、人の喜びとして共感できる態度を養う。
	⑪ ⑫ ⑬ ⑭	災害発生のメカニズム 東日本大震災の被害 郷土の震災の歴史 日本の自然災害	土・水・風・火・雨などの性質を理解し、地震や津波、風水害、火災など自然災害が発生するメカニズムについて理解できるようになる。 東日本大震災の被害の様子を中心に調べ、地震や津波などの災害が起きるどのような被害があるか理解できるようになる。 過去に郷土で起きた災害の様子を調べ、郷土の自然災害の特性や災害を防ぐための努力や工夫について理解できるようになる。 日本の自然災害の発生状況を調べ、自然災害は地形や土地の成り立ち、気候などと関係が深いことや災害を防ぐために様々な努力や工夫がされていることを理解できるようになる。
	⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲	ライフラインの重要性 救援活動で働く人々 情報の活用と伝達 経済への影響 復興へのあゆみ	震災津波の体験からライフラインの大切さを知るとともに、水・電気・ガス・灯油・ガソリンを供給したり、下水・ゴミを処理したりする仕組みについて理解できるようになる。 救援活動で働く人々の様子について調べ、人々の生命や財産を守るために働いている人々の思いや組織的な取組について理解できるようになる。 災害時における情報の大切さや入手方法を知り、正確な情報の収集、選択の重要さ、情報発信の方法や影響について理解できるようになる。 身近な人の仕事や地域経済への震災による被害の様子を調べ、自然災害が与える経済への影響について理解できるようになる。 災害で被害を受けた交通網や産業、住宅や街の復旧、復興の様子を調べ、災害に強いまちづくりについて理解できるようになる。
技	⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕	学校で 家庭で 地域で 身を守る 体を守る 生き抜くこと	学校内で身近な安全点検をしたり、様々な自然災害に対して、避難方法や避難経路を理解して安全に避難したりできるようになる。 家具の安全対策、避難の方法や非常持ち出し品等、家庭でできる防災対策の必要性を理解し、家族で話し合って備えができるようになる。 防災マップを作り、地域の避難場所や危険箇所を確認し、地域の防災活動に積極的に参加できるようになる。 地震津波、火災、崖崩れ、風水害などに直面したとき、自他の命を守り、被害を最小限に止めるための技能を身に付けることができるようになる。 災害や様々な自己に直面したとき、自分で応急手当をしたり、食中毒を防ぐための衛生に気を付けることができるようになる。 非常時に生き抜く知恵としてのスキルの必要性を理解し、衣食住に関する基本的な技能を身に付けることができるようになる。

3_4**年間指導計画の作成**

年間指導計画は、学年や学級において、その年度の復興教育の学習活動の見通しをもつために、各教科、領域、教育課程外の時間の1年間の流れの中に単元（時間）を位置付けて示すものである。

作成に当たっては、①学習指導要領のねらいに沿って学習を進めること。②例示した教育内容を参考に教科・領域等のねらいに沿って位置付けること。そのとき、学習課題・学習対象・学習事項を明らかにしておくことは、自己の将来を力強く着実に切り開いていくうとする資質や能力、態度の育成において重要である。

本プログラムでは、教育内容について、復興教育として再構築が可能と思われるものについて例示している。具体的なイメージをもちやすくするため、便宜上、3つに分類して示している。そのときのカリキュラムへの位置付けの工夫としては、次の2点が挙げられる。

- 復興教育の教育内容（教育内容を構成する学習課題・学習対象・学習事項）から、教科・領域等の単元・題材を見直し、単元・題材相互の関連を考え、単元配列を工夫し、児童生徒の意識の連続性を図れるような工夫をする。
- 復興教育の教育内容（教育内容を構成する学習課題・学習対象・学習事項）から他教科等との関連を考え、クロスカリキュラムや総合的な学習の時間を工夫する。

【復興教育の内容「何を」位置付けるか】

命 ③ 「生きることの希望・夢・たくましさ」

どんなつらいことや苦しいことにも負けず、希望と夢を持ち、たくましく生きていく強い意志と態度を養う。

1

絆 ⑩ 「ボランティア」

人と社会のために役立つことを自分から進んで実践し、人々の喜びとして共感できる態度を養う。

3

絆 ⑥ 「地域」

地域には様々な立場の人が共に生活していることや、自分の生活が地域社会との関わりの中で成り立っていることに気付き、地域の一員として積極的にかかわろうとする態度を養う。

2

絆 ⑩ 「郷土」

郷土に愛情と誇りをもち、美しい自然、伝統行事・芸能、温かい人のつながりのある社会、安全な街を願い、未来の担い手として、県づくりや街づくりに関心を持つことができる。

4

「いわての復興教育」スタートガイド

計画(P)段階 2 年間指導計画(例)

ア「組み替え型」(キャリア教育)やイ「課題対応型」(防災教育)を組み込んだ総合的な学習

ア	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	中2
総合的な学習	「未来の自分に近づこう」「職場体験に行こう！」 34h ・課題決め ・職場決め ・事前・事後学習	職場体験	「働くって何だろう！」 16h ・夢の実現へ向かう話 ・芸能人・スポーツ選手 ・復興に向かう地域の方々の話 ・働く意義の考察	発表会	「私のライフプラン」 20h ・具体的な方策を知る ・地域の方々から学ぶ ・ボランティア体験 ・ふるさとの将来像 ・将来の進路を考える	提言							

イ	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	中1
総合的な学習	「ICTで地域の安全を築こう」(50h)												

社会 ⑪ 「情報の活用と伝達」

災害時における情報の大切さや入手方法を知り、正確な情報の収集、選択の重要性、情報発信の方法や影響について理解できるようにする。

5

					計画(P)段階 2年間指導計画(例) 「課題対応」型(防災教育)を組み込んだ特別活動
					小5 特別活動
特 別 活 動	4月 交通安全教室1h (学校行事)	5月 防災学習1h (学級活動)	6月 防災訓練1h (学校行事)	9月 防災訓練1h (学校行事)	10月 自然学校15h (学校行事)
	道路歩行や自転車の乗り方等の指導を通して、交通事故から身を守る方法を身に付けることにより、命の大切さを理解する	火災や地震が発生した場合の避難の仕方について話し合い、基本的な行動様式を理解する	校舎内での火災を想定した防災訓練を行い、安全な避難の仕方を体得する	休み時間における火災を想定した訓練を行うことにより、「その場に応じた状況判断」をする力を養う	自然学校での様々な活動体験を通して非常時に備えて、自己を守り、生き抜くことができる力を身に付ける
特 別 活 動	10月 水なし体験1h (学校行事)	11月 暖かい支援1h (学級活動)	11月 地域クリーン1h (学校行事)	2月 防災訓練1h あの日、あの時1h (学校行事)	3月 3.11の体験 を生かし、 地震に対する安全な避難の仕方を 体得する
	水なし体験を通して、ライフラインの大切さに気づく	震災津波に対する支援が全国から来ていることに気付き、感謝の気持ちを持つと同時にボランティア活動や家族の手伝いを進んでしようとすると態度を養う	近隣公園等の施設の清掃活動を地域の方と協力して行うことによって、地域とのつながりを一段強める	東日本大震災をいろいろな角度から調べてみようとする意欲を育てる	

P)段階 2年間指導計画(例)
「充実・深化」型(各教科指導)

					小6 理科
					4月 物の燃え方と空気10h ヒトや動物の体9h 理 科
					物が燃焼するしくみを理解し、火災発生時に取るべき行動について、科学的に対応できるようにする
					呼吸のしくみ、心臓、肺の役割を理解すると共に、応急手当、心肺蘇生法の基礎を身に付ける

3月
大地のでき方13h
ヒトと環境10h

関連	家庭科 「衣服の選び方」	体育 「けがの防止 5」「病気の予防 6」	家庭科 「私たちの生活とすまい」	国語 「人類はほろびるか」 社会 「世界の中の日本」
----	-----------------	--------------------------	---------------------	-------------------------------------

P)段階 2年間指導計画(例)
「充実・深化」型(各教科指導)

					中1 道徳
					ウ
	主として自分自身 に関する事	主として他人との かかわりに関する事	主として自然や崇高 なものとのかかわり に関する事	主として集団や社会 とのかかわりに関する事	
道 徳	[内容項目(4)] 真理を愛し、真実を求める、理想の現実を目指して自己の人生を切り拓いていく。	[内容項目(6)] 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。	[内容項目(3)] 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることに喜びを見いだすように努める。	[内容項目(9)] 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。	
	題材例 「人に喜ばれることは自分の喜びでもある」(目標)	題材例 「命を助けたい－思いは国境をこえて－」(東書)	題材例 「村への道」(学研 岩手県版資料)	題材例 「金閣再建 黄金天井に挑む」(学研)	

※参考
小学校「生きる力」を育む
防災教育
神戸市教育委員会(1997, 3)

【年間指導計画例】

●第3編 一 4復興教育の年間指導計画

社会科 [第5学年]

※関連：中学校社会科 技術・家庭科

月	単元	時	ねらい
11	運輸業で働く人々 [課題] 社会⑩経済への影響	6	震災津波によって、国道・高速道路や鉄道が大きな被害を受け、復旧するまで運輸業にどのような影響を与えたのかを調べ、運輸業とくらしや産業のつながりについて考える。
12	日本の貿易と人々のくらしや産業 [課題] 社会⑩経済への影響 ⑯復興へのあゆみ	2	震災津波によって大きな被害を受けた三陸の漁港の様子や取り扱い高などを調べ、三陸のくらしや産業に果たす役割について考える。また、三陸の漁港の復旧の様子や新しく生まれ変わる漁港の様子について調べ、三陸の復興に関心を持つ。
1	くらしにむすびつく情報 [課題] 社会⑪情報の活用と伝達 情報の活用と伝達 [課題] 社会⑪情報の活用と伝達	2	震災津波の報道により、全国や世界中に被災地のようすが伝わり、多くの支援が得られたことやさまざまな通信網が被災地での安否確認や支援に大きな役割をしたことに気付く。
2	森林資源と国土の保全 [課題] 自然⑭日本の自然災害	2	震災津波時に人々がどのような情報をどのようなメディアで入手していたかを調べ、必要に応じて情報を選択し、正確な情報を入手することが大切なことに気付く。また、情報を入手するだけでなく、自分から情報を発信できる方法を知り、活用できるようにする。
			森林は、木材を生産する働きだけでなく、洪水や山崩れなどの災害を防止し、国土の保全や水資源（海等）の涵養、大気の浄化などの生活環境を保全する働きがあることを理解する。

家庭科 [第5学年]

※関連：中学校技術・家庭科

月	単元	時	ねらい
4	わたしたちと家庭生活 家庭の仕事とわたし [課題] 絆④家族	1 3	家族の一員としての自分と、分担する仕事を考える中から、家族のきずなやボランティアの心を考える。
10	調理に使う燃料とこんろ [課題] 技⑬身を守る	2	がズ漏れに気がついた時の処理の仕方、ガスのたまり方と喚起の仕方を学習することにより、地震その他のガス漏れに対処することができるようになる。
2	身の回りの整理・せいとん [課題] 技⑪家庭で	1	毎日の生活の中で整理・整頓していると、災害時に必要な物がすぐに取り出しができたり、安全に避難できたりすることを知り、実践する。
2	ごみの始末と不要品の活用	4	増加している紙のゴミを考えることにより、木材の伐採が海の涵養などの環境保全に影響を及ぼしたり、大雨の際の土砂崩れにつながっている事を知り、生活の仕方を考える。

3_5

単元指導計画の作成



「いわての復興教育」スタートガイド

**復興教育を位置付けた
教育課程の編成
ー 単元指導計画ー**

イ カリキュラムのPDCA

実施(D)段階
3 単元指導計画
 「どのように」復興教育
 の内容を位置付けていく
 のかを明確にし、具体的
 な指導・支援と結び付ける

単元指導計画の構成要素

- ・単元名
- ・単元設定の理由
- ・単元目標
- ・単元の評価規準
- ・指導計画

平成24年度 総合的な学習の時間「生き生きタイム」 第2学年 単元計画	
1 単元名	「未来の自分に近づこう！」 70時間扱い
2 単元設定の理由	(1) 生徒の実態から (2) 単元で育成したい資質や能力及び態度 【学習方法に関すること】 【自分自身に関すること】 【他者な社会に関すること】 (3) 教材化について
3 単元目標	
4 単元の評価規準	
5 指導計画	

単元	指導計画	実施(D)段階
第1回 くわん うぶ	○ 生き方講話 ○ 働く人聞いてみたいことを次課題に設定 ○ 職場再訪問	8
第2回 くわん うぶ	○ 学んだことのまとめ ○ 文化祭での発表と意見交流 ○ 指摘や疑問のまとめ	8
第3回 くわん うぶ	○個人課題の設定 (プロの知識を学ぶ) ○書籍等による調査活動 ○地域の専門家訪問	14
第4回 くわん うぶ	○わかったことのまとめ ○自己の将来設計 ○地域の人の交流	6

単元とは、児童生徒の学習過程における学習活動の一連の「まとまり」という意味である。単元計画の作成とは、教師が意図やねらいをもって、このまとまりを適切に生み出そうとする作業である。

【復興教育を進めるに当たっての留意点】

- ①児童生徒の関心・意欲を大切にし、問題解決的な学習を工夫する。
- ②観念的な指導に終わるのではなく、体験的・実践的な活動を多く取り入れ、生活に生かされるような学習を工夫する。
- ③学習内容によっては、学級の枠にとらわれず、学年や全校ぐるみで取り組むような多様な方法を工夫する。
- ④避難訓練については、多様な方法で実施する。
 - ・災害の想定・・・地震、津波、火災、風水害、土砂崩れ、複合災害など
 - ・時間の想定・・・在校時で指導者が児童生徒と一緒にいる場合といない場合、登下校時
 - ・予告なしの訓練
 - ・家庭・地域・関係機関との連携・・・保護者への引き取り、防災コミュニティ、近隣校役場（教育委員会）、消防署、警察
- ⑤児童生徒一人一人の被災体験は異なり、児童生徒・家庭・地位の生活状況や意識は異なる。復興教育を推進していく上で、それらの実態を把握し、十分に配慮する。
- ⑥各学校における、震災津波当時や復興過程における貴重な資料を整理・保管し、防災教育の資料として活用できるようにしておく。

【単元指導計画例】

実施(D)段階 3 単元指導計画(例)
「充実・深化」型(各教科指導) 小6 理科

自然(課題) ⑪災害発生のメカニズム(学習対象)
土・水・風・火・雨などの性質を理解し、地震や津波、風水害、
火災など自然災害が発生するメカニズムについて理解できる
ようにする(学習事項)

- 1 単元名 大地のでき方
 2 ねらい 自分たちが生活している大地をつくっている地層や岩石に関する理解を深める中で、初步的な地震のメカニズムを知り、日頃から地震に対して備えておくことの大切さに気づく
 3 資料 自然の力(仮称) ※教育センター作成
 4 指導計画 第1次 火山の噴火と火成岩(3時間)
 第2次 土地の作りと様子(4時間)
 第3次 地層のでき方(5時間)
 第4次 地震発生のメカニズム(1時間・本時)
 5 本時の展開(第4次 1時間)
地震はなぜ起こるのだろうか
- ①「大地のでき方」の学習内容を確認する
- 地下の深いところにはマグマがあり、それは溶岩となって、地表に噴出し、冷やされ岩石となる。
 - 地面の真下には、地層が広がり、この地層は、土地の隆起、沈降、構造などによってできたものである。
 - 地層は、長い年月の間に、様々な変化の様相を見せる。
- ②資料を読む 地球の表層は、プレートとよばれる十数個の岩石でできており、それが年間数センチメートルの早さで動いていることを知る。
- ③地震はプレート境界型地震とプレート内陸型地震の二種類に大きく分けられることを知る。
- | | |
|------------------------|------------------------|
| 実験1
プレート境界型地震発生のしくみ | 実験2
プレート内陸型地震発生のしくみ |
|------------------------|------------------------|
- ④地震のものとなるプレートの境目や活断層の分布図を見て考える。
- 「全国活断層分布図」を見て、活断層が日本中に広がっていることを理解する。
- ⑤「もし、地震が起きたら・・・」と考えて、普段から備えておいたり、そのときどうすればよいか考える。
- | | |
|------------|-------------|
| 《地震に対する備え》 | 《もし地震が起きたら》 |
|------------|-------------|
- 自分の意見をまとめる → グループで話し合う → 発表する
- ⑥今日の授業の感想を書く。発表する。

23

実施(D)段階 3 単元指導計画(例)
「課題対応」型(防災教育)

技(課題) ⑪学校で身を守る(学習対象)
 ・様々な自然災害に対して、避難方法や避難経路を理解して安全に避難できるようにする
 ・様々な自然災害に直面したとき、自他の命を守り、被害を最小限に止めるための技能を身に付ける(学習事項)

小 学級活動
学校行事

- 1題材 防災訓練
 2ねらい 地震発生に際しての安全な避難の仕方を身に付ける。
 児童の引き渡しを行うことにより、災害に対する意識の高揚を図る。
 3資料 防災スタートマニュアル(仮称) ※学校教育室作成
 4指導計画 年間を見通して、状況に応じた安全な避難の仕方を身に付ける。
 第1次 防災に関する基本指導(1時間) <学級活動>
 第2次 火災を想定した防災訓練(1時間) <学校行事>
 ・「授業中に火災が発生した場合」・・・1/2時間
 ・「休み時間に火災が発生した場合」・・・1/2時間
 第3次 地震を想定した防災訓練と児童の引き渡し訓練(1時間) <学校行事>

- 5 本時の展開(第3次 1時間)
 ねらい ・地震発生に備え、安全な避難の仕方を身に付ける
 ・児童を保護者に確実に引き渡すことができる

訓練	児童の動き	職員の動き
地震発生 緊急避難	・放送を聞き、教師の指示の下に机の下にもぐり込む。 ・机の脚をしっかりと持つ。	・机の下にもぐるように明確に指示する。
運動場へ避難	・座布団等で頭部を保護する。 ・「お」「は」「し」の原則を守る。 ・運動場中央に朝会隊形で整列。	・学校防衛組織の係分担に即して所定の場所で児童の避難誘導に当たる。
人員点呼	・座って教師の指示を待つ。	・確実に人員点呼する。 ・人員を報告する。
学校長の話 児童の引き渡し	・静かに話を聞く。 ・各学級毎に分かれ整列する。 ・迎えの方と一緒に下校する。	・避難の仕方にについての講評。 ・日頃からの「地震に対する心構え」についての話 ・児童を呼名し、迎えに来た人を確かめて児童を引き渡す
残留児童の引き渡し	・迎えの方が来られない児童は、図書室へ移動し、地区別の班毎に分かれる ・各地区別の担当教師の引率の下に地区でまとめて下校する。	・保護者へは、防災訓練・児童引き渡しの趣旨を知らせておき参加の協力を求めておく。 ・学級担任から各地区担当教師への児童の引き渡しを確実にする。

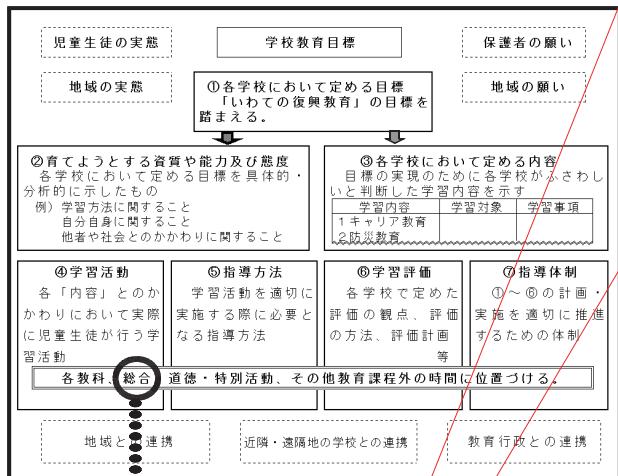
24

【キャリア教育・地域との交流を組み込んだ総合的な学習の時間単元指導計画例】

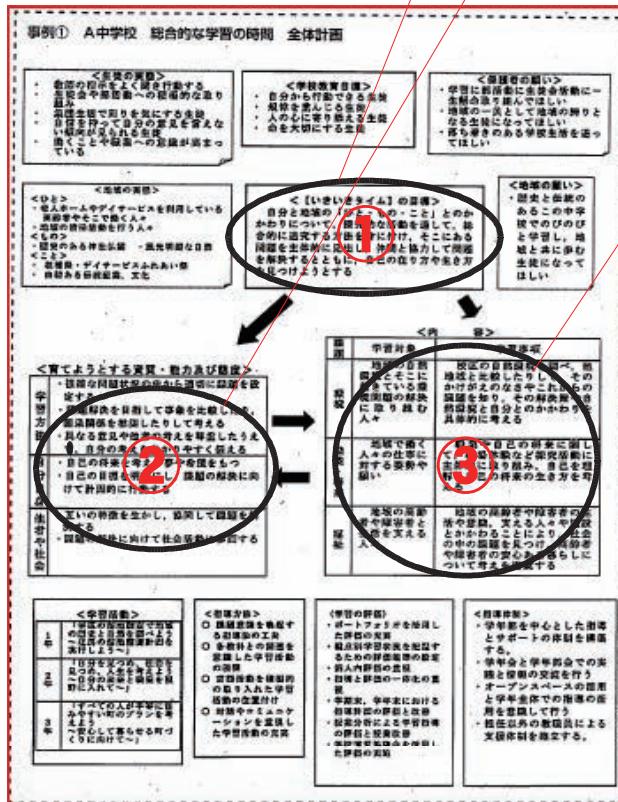
復興教育の内容を扱う教科・領域等の全体計画・年間指導計画

例) 総合にキャリア教育の内容を組み込んだ例

■復興教育の全体計画



<全体計画>との関連



<年間指導計画との関連>

4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
「未来の自分に近づこう」 「職場体験に行こう！」 ・課題決め ・職場決め ・事前・事後学習		34h 職場体験		「働くって何だろう？」 夢の実現へ向かう話 芸能人・スポーツ選手 復興に向かう地域の方々 働く意義の考察		16h 発表会		「私のライフプラン」 ・具体的な方策を知る ・地域の方々から学ぶ ・ボランティア体験 ・ふるさとの将来像 ・将来の進路を考える		20h 提言	

①目標

地震津波（震災）を経験し、自分と地域の「ひともの・こと」とのかかわりについて、探究的活動を通して、総合的に追究する方法を身に付け、そこにある問題を主体的に見いだし仲間と協力して問題を解決するとともに、自己の在り方や生き方を見つけようとする。

②本単元で育てようとする資質や能力及び態度

学習方法	・地域の方々の仕事に対する姿勢や願いを、自分の考えと比較したり、行間に込められた思いを推測したりする。
自分自身	・郷土の復興に力を注ぐ人々から、生きるとは何か、働くとはどういうことかを学ぶ。 ・震災津波と向き合い、将来の夢や希望を具体的に描き、今の自分と照らしながら、夢や希望に向かうための目標を具体的に学ぶ。
他者社会	・復興・発展を目指す社会の中で、自らの役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくにはどうすればよいかを考え、実践しようとする。

③本単元で扱う内容

職業・将来	【学習対象】 地域で働く人々の仕事に対する姿勢や願い 【学習事項】 職業や自己の将来に関して、職場体験などの探究活動に主体的に取り組み、自己理解し、自己の将来の生き方を考える。 ・地域の復興にかける人々の思いや願いをインタビューする ・地域の復興にかかるボランティア体験 ・ふるさとの将来像を描く「まちづくり」提言
-------	---

□単元名「未来の自分に近づこう！」(第2学年70時間)

<単元の概要>

3日間の職場体験や、地域で働く人々とかかわる活動を中心に、復興にかける人々の仕事に対する姿勢や願いを知り、自己の将来や生き方を考えさせるように学習活動を展開する単元

□ 単元指導計画例

平成24年度 総合的な学習の時間「生き生きタイム」 第2学年 単元計画

1 単元名 「未来の自分に近づこう！」 70時間扱い

2 単元設定の理由

(1) 生徒の実態から

生徒たちは、進路学習等を通して、生活や社会にある様々なことに対して、たくさんの興味や関心、疑問、意欲が沸いている。また、職場体験を楽しみにしており、働く体験を通して、社会性や職業観・勤労観について意識が芽生えはじめ、社会に出て生活することを考え始めている。

そこで、こうした興味・関心や疑問、「もっとやってみたい！」という意欲をさらに追究できる機会を設け、将来の自分に向かいもう一歩努力するため地域の方から学ぶ機会が必要と考え、この単元を構想した。

(2) 単元で育成したい資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ・地域の方々の仕事に対する姿勢や願いを、自分の考えと比較したり、行間に込められた思いを推測したりする。

【自分自身に関すること】

- ・郷土の復興に力を注ぐ人々から、生きるとは何か、働くとはどうのことかを学ぶ。
- ・震災津波と向き合い、将来の夢や希望を具体的に描き、今の自分と照らしながら、夢や希望に向かうための目標を具体的に学ぶ。

【他者な社会に関するここと】

- ・復興・発展を目指す社会の中で、自らの役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくにはどうすればよいかを考え、実践しようとする。

(3) 教材化について

学習対象は「地域で働く人々の仕事に対する姿勢や願い」であり、これを一人ひとりの疑問・関心とつなげて、個人課題を設定させる。職業学習を終えたことで、生活や社会に新たな発見があり、それをもう一度地域の方から学ぶことが、生徒一人ひとりにとって魅力的な教材となり、主体的で熱心な学習の姿が期待できる。そこで、中心的な活動として、地域に出かけ、地域にの方との語り合いに取り組む。

3 単元目標

地域で働く人々の仕事に対する姿勢や願いを通して、職場体験を通して生じた関心や疑問を探究することで、職業や自分に対する理解を深め、自己の将来の生き方を考える。

4 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会に関すること
評価	①地域の人の仕事に対する姿勢や願いを取材し、その表情やしぐさまで読み取り記録している。	①将来の夢や希望に向かうための目標や、その達成に必要なことを課題に設定している。	①地域の人に積極的に質問したり、交流を深めたりしている。 ②地域の中で自分がどう在りたいか、地域とどうかかわっていきたいか、自分なりに考えている。
規準	②職場体験で生徒自身が感じたことと取材で分かったことを比較して考察している。	②地域の人から学んだことと、収集した十分な資料に基づき、自分の生き方を考えている。	

5 指導計画

	主な活動内容	時数	○指導上の留意点
職場 体験 に元 行こ う	○単元オリエンテーション ○個人課題と体験先決定 ○職業調べ ○マナー講座 ○職場体験学習 ○体験のまとめ ○次課題の設定	2 8 18 6	○職業への関心をふくらませる。 ○各職種の業務内用等について事前に学習させる。 ○自分が感じたことや思ったことを言葉で表現させる。
働く くて 何だ ろう	○生き方講話 ○働く人に聞いてみたいことを次課題に設定 ○職場再訪問 ○学んだことのまとめ ○文化祭での発表と意見交流 ○指摘や疑問のまとめ	8 8	○職業観や勤労観に着目させる。 (※復興の視点を含む) ○夢や希望をもつことの大切さや実現に向けて困難に立ち向かう強い意志と態度にふれさせる。 ○地域の人とのかかわりを深められるよう配慮する。 ○気持ちや考えを言葉で表すよう指導する。 ○自分なりの夢や希望、職業観が芽生えるようにする。
私の ライフ プラン	○個人課題の設定 (プロの知識を学ぶ) ○書籍等による調査活動 ○地域の専門家訪問 ○わかったことのまとめ ○自己の将来設計 ○地域の人の交流	14 6	○プロ意識、職業生活、岩手の現状、こだわり等に着目させる。 ○自分が感じたことや思ったことを言葉で表現させる。 ○地域の人から学んだことを自己の将来に結び付ける。 ○対象を岩手に広げ、ふるさとの将来像を描き、「まちづくり提言」をする。

※ゴシック体は、復興教育の視点からの留意点

山田町の復興「夢の町」の提案に向けて、身近な生活空間にある人・もの・ことの学習対象を段階的に配置し、体験的な学習で構成している。また、教科・領域を意図的に関連させ、学習内容の定着・活用が図られている点が参考となる指導計画である。

平成23年度 大沢小学校 総合的な学習の時間第4学年

1 単元名 「よみがえれ、大沢」

2 単元について

(1) 単元設定の理由

子ども達にとって大沢は、牡蠣やホタテがとれ海水浴の出来た海があり、動植物と身近に接することの出来る山があり、コンビニや大型量販店などもある自然が豊かで利便性もよい住みよい地区であった。また、先祖代々この地にすんでいる児童も多く、地区や学校に愛着を持っている児童も多い。

しかし、3月11日の東日本大震災の津波による被害で、自然も生活も一変し、昨年度までの「大沢の自慢探し」のような活動ができなくなってしまった。そのような状況下でも、未来に夢を抱き、ふるさとに誇りを持ち続けられる心を育てたいと願い、本単元を設定した。

本単元「よみがえれ、大沢」は、「生活を守る」「バリアフリー」「エネルギーについて」「復興子ども会議」の4つの小単元からなり、たくさんの人々に支えられて生活してきたこと、電気のない生活を経験し電気について深く考えたこと、みんなが住みよい町にするために視野を広げることを元にし、これから町づくりを自分なりに考える学習の流れとなっている。この学習を通して、山田町により一層の愛着を持てるよう指導して生きたい。

(2) 児童について

本校の4年生は、好奇心が旺盛で、求められた事柄にまじめに取り組んでいる。

1学期は、支援物資がいつ、だれから、何を届けられたのかが書かれた資料から、「何曜日に多いか」「どこからなのか」「どんなものが多いのか」という自分なりの課題を見つけ、グラフや地図にまとめ、そこから分かることを考察することが出来た。ただ、自分たちで1から考え、作り上げる体験が少なかったためか、考えたことを調べ進めるためにどんなことをするのか、どのようにまとめるのかを自分たちで考えることが難しい。また、意見を主張しあうあまり、グループの中で考えがまとまらず、何度も助言をしなければ進めないグループもあった。更に、生活経験や知識の個人差が大きく、全員が的確な課題を見つけることも難しいことが多い。

そこで、単元に関わる直接体験を学級全員で活動することにより、レディネスを近づけると同時に、社会科、国語、算数、道徳、図工の学習内容との関連付けをし、横断的な活動によりそれぞれの教科の理解を深め、総合的な学習に生かす力、総合的な学習から生かす力を意識しながら進めていきたい。

(3) 指導にあたって

本単元では、次の点について重点を置いて指導していきたい。

- ① 体験を重ねて、より的確な課題作りをする。

葛巻町の見学、点字、消防署員の話の中から道路について考える、仮設住宅、今の生活で足りないもの等あらゆる視点から今後の町について考えられるようにする。

- ② 主体的に調べ学習が出来るようにする。

調べる方法をインタビュー、パソコン、写真、体験など紹介しながら、自分たちの活動によりふさわしい調べ方について一緒に進めていく。

- ③ 交流の場を設定し、視野を広げる。

復興会議は、どれかに決めるのではなく、様々な視点で提案しあうことで子ども一人一人の視野を広げ、より具体的で夢のある提案にするために磨きあう場としたい。

3 単元の目標

- (1) 体験や既習の学習をもとに、自ら課題を見つけ、追求したことを発表する。
- (2) 大沢地区や山田町に対し、愛着を深め、未来に夢を抱きながら、根拠を元に自分なりの考えを持つ。
- (3) 子ども復興会議を通して、互いを認め合い、視野を広げる。

4 単元の評価規準

- (1) 見学、社会科・国語科の学習などから、山田町の新しい町作りに関わる課題を自ら見つけ、見通しを持って解決している。
- (2) 大沢地区や山田町の今後について自分なりに考え、自分たちの考えを持って追究し、子ども復興会議に発表することが出来る。
- (3) 会議を通して、学級の友達や町の職員とのつながりを持ち、町作りを様々な角度からみている。

5 単元の指導計画 (27時間扱い)

過程	主な活動	教師の支援	教科・領域との関連
生 活 を 守 る 人 た ち 8	大沢の安全を守る人たち 3 ・山梨県警のみなさんありがとう 2 山梨県警の警察官から話を聞いた。 ・消防署の仕事 1 山田消防署の見学	・市民の安全を守る通常の警察の仕事のほかに、被災地でどんな活動をしているのか、ゲストティーチャートして招き、学習した。 ・火事を消す、急病人を運ぶ仕事のほかに、消防署自体被災している山田消防署を見学し、署員から被災当時の話を聞いた。	社会 「安全なくらしまちづくり」 道徳 「しょうぼうだんのおじさん」

第3編 一 5 復興教育の単元指導計画

	生活を支える人たち ・避難所職員の仕事 ・物資はどこから	5 2 3	・本校避難所の担当職員をゲストティーチャーとして招き、避難所運営の組織・役割や、仮設住宅の話を聞いた。 ・3/11から4/2までの分の学校に寄せられた支援物資の一覧の資料をもとに、自分でまとめたいことを決め、グラフや地図に表した。	算数 「変わり方をグラフに表そう」 国語 「調べたことを報告する文章を書こう」
自然エネルギー 5	エネルギーについて考えよう ・電気はなにから作られる ・葛巻町に学ぼう	5 2 3	・震災直後、電気がなく不便な思いをしたことを想起させ、何で発電しているのか予想させた。その後、発電について調べ、火力・原子力・水力の長所短所をまとめた。 ・全国でも新エネルギーの先進市町村として知られる葛巻町のエネルギーについて見学し、山田復興のヒントにする。	理科 「電気のはたらき」 社会 「岩手県の様子」 図工 「心に残ったそのことを」
バリアフリー 6	点字を学ぼう ・点字の仕組み ・手紙を出そう	3 2 1	・身のまわりにある点字を探し、点字の読み方、表し方を学習する。 ・本校に来た特別支援学校児童からの点字の手紙を紹介し、みんなで返事を打つ。	国語 「だれもがかかわり合えるように」
子ども復興会議 8	子ども復興会議を開こう ・計画を立てよう (本時) ・会議の準備をしよう ・子ども復興会議 ・提案します夢の町	8 1 3 2 2	・これまで学習してきたことや、自分で調べてきたことをもとに、これから山田町を4年生なりに提案させる。 ・会議をもとに、地域の人に発信する。	社会 「安全なくらしまちづくり」

6 本時の指導 (19/27)

(1) 本時の目標

既習の学習や体験をもとに、これから山田町の町づくりについて一人ひとりが課題をもち、会議への意欲を持つことができる。

(2)本時の展開

時間	学習活動	教師の支援
つ か む 5	<p>1 既習の学習でお呼びしたゲストティーチャーを想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山梨県警 ・消防署 ・葛巻高原牧場の木村さん ・役場職員避難所対応の道又さん ・日本赤十字和歌山 <p>2 本時の内容を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">課題を決め、計画を立てよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのゲストティーチャーの話から、新エネルギー、安全、暮らし、健康、交通の項目を思い出し、課題につなげていきたい。
追 究 す る 35	<p>3 今、自分が興味のある課題について出し合い、分類する。</p> <p>4 大沢地区、山田町の新しい街づくりに必要なことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路 ・バリアフリー ・住宅地 ・新エネルギー ・漁業 ・店や娯楽 <p>5 自分の課題を決める。</p> <p>6 グループを作り、活動の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路は山を通って作る。 ・風力発電や太陽光発電、バイオマスを設置する。 ・漁業復活のために、海をきれいにする。 <p>7 今日の活動を振り返り、今後の意欲について感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を一つずつカードに書き、黒板に貼りながら分類する。 ・復活させたいもの、新たにつくるといいものをださせる。 ・事前アンケートを元に、分類した課題とからめながら具体化していく。 <p>・自分の課題について再度考え、そのままかえない、付け足す、かえるなど、自分で調べられそうなものを決定させたい。</p> <p>・何をどんな場所に作るのか、また、それをまとめるために、何で調べたらいいのかなど、具体的に計画を立てさせたい。</p>
振 り 返 る 5		

7 評価規準

既習の学習や体験をもとに、これから山田町の町づくりについて一人ひとりが課題をもち、会議への意欲を持つことができたか。

第4学年道徳指導案

- 1 主題名 進んで人のために
 2 単元名 神戸のふっこは、ぼくらの手で
 3 ねらい

社会生活を営む中で、自分にできることを見つけて積極的に働くことの意義や大切さを知り、社会のために進んで役に立とうとする心情や意欲を育てる。

4 指導計画

第1時 震災に関わる事前学習

- 震災に関わる写真、避難所や仮設住宅の現状など可能な限りの資料から、震災の状況を理解する。
- 津波体験をした省一先生（本校教諭）に当時の様子を伺い、理解を深める。
- 震災の中どんなことが困ったか想起させ、自分たちに何ができるか考えさせる。

第2時 資料を読み、ねらいとする価値を追求する。（本時）

5 展開例

	学習活動	指導場の留意点
導入	<p>(1) 前時の学習を想起する。</p> <p>○どんなことが困ったか、また困っていると思ったか思い出してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物や水 ・ねるところ、住まい。 ・また地震や津波がきたら・・・。 	<ul style="list-style-type: none"> ●あまり時間をかけず、想起させたい。
展開	<p>(2) 資料「神戸のふっこは、ぼくらの手で」を読んで、話し合う。</p> <p>○便所の後始末を黙々とやっている先生の姿を見て、「ぼく」はどんな気持ちだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生はすごいな。 ・先生は、こんな仕事を嫌じやないのかな。 ・ぼくは、手伝いしてないな。 <p>○女の子が牛乳瓶を温め、配っているのを見ていた「ぼく」は、どんな気持ちだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・偉いな。 ・みんなのために、すごいな。 ・自分にできる仕事をしているんだな。 ・ぼくもなにかやってみたい。 <p>○泣いている子どものために、必死で絵本を探し回ったのは、「ぼく」のどんな気持ちからか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくも何かしなくちゃ。 ・ぼくにもできる仕事があったんだ。 ・みんなのように、一生懸命誰かのために働く。 <p>○先生に「みんな、いきいきしてきたようだ。」と言われたとき、「ぼく」はどんな気持ちだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちにできる仕事ができてよかったです。 ・みんなの役に立ててうれしい。がんばろう！ <p>(3) 人のために働く経験について話し合う。</p> <p>○人のために何かをしたときの気持ちを思い出してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変だけどやってよかった。気分がいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●先生の素晴らしいと同時に、こんな仕事をしながら先生は嫌だと思っていないのかどうかも忖度させたい。 ●みんなが自分にできる仕事をやっているのに、自分は何もしていないつらさや悲しみにも共感させたい。 ●ようやく自分の仕事が見つかって懸命になる「ぼく」の思いを十分探っていきたい。 ●働くことに対する意識の変容をとらえたい。
終末	(4) ボランティア活動をしている人の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ●校務技能員の中館先生の話を聞きながら、大変さと同時にそれが人の役に立っていると実感したときの、うれしさも話してもらう。

3_6**関連指導資料**

「いわての復興教育」スタートガイド

The diagram illustrates the Curriculum PDCA cycle. It shows a continuous loop between '実施(D)段階' (Implementation phase) and '検討(P)段階' (Review phase). The implementation phase involves specific materials and activities, while the review phase involves practical examples and application materials.

**復興教育を位置付けた
教育課程の編成
—関連指導資料—**

イ カリキュラムのPDCA

実施(D)段階

4 具体的な教材・資料等
授業や活動の展開に際して、
「どんなもの」が必要か検討し
用意する

・単元(授業)水準
各教科・領域 ボランティア
健康・心のケア
地域、学校間交流
・防災水準

単元(授業)水準から

単元指導計画例 実践事例集及び授業活用資料(ワークシート 等)
指導資料(理科・社会・家庭科・保健体育等・ICT関連 等)
(復興教育関係副読本)

防災水準から

防災基本計画案 防災訓練実施計画案
関連資料

防災組織(地域連携含) 連絡網(同上) 避難経路・マップ家庭との連携
防災教育実施例及び資料 等

授業をはじめとした実際の教育活動では、指導計画作成や学習内容及び学習対象に関連した計画及び指導資料が、学びの支援や確かな指導に欠かすことができない。

復興教育を推進するに当たり、各校でこれらの資料を用意することが求められるが、参考となる関連指導資料を、学校のニーズに応えながら総合教育センターを中心として作成していく。

【単元水準から求められる関連指導資料】

事務所単位で、各教科・領域、児童生徒会支援活動、地域や学校間交流（ボランティア、文化・スポーツ交流）、健康・心のケアに関わる実践例を収集し、授業での活用できる資料（実践資料集、授業シート、指導資料 等）を作成する。

【防災水準から求められる関連指導資料】

事務所単位で、各市町村の方針を受けて作成した学校の防災基本計画案及び防災訓練実施計画案とそれに伴う資料の収集を行い、各学校の防災計画を見直し、改善に資する資料を作成する。また、防災教育の推進に資する学習指導資料を作成する。

**実施(D)段階 4 具体的な教材・資料等
ウ「充実・深化」型(各教科指導)**

自然(課題) ⑪災害発生のメカニズム(学習対象)
土・水・風・火・雨などの性質を理解し、地震や津波、風水害、火災など自然災害が発生するメカニズムについて理解できるようにする(学習事項)

水平滑ブレートはユーラシアブレートを引きこむ同時に、内部方向にブレートを押していく。

水平滑ブレートはユーラシアブレートを引きこむのでなく、斜線部のような形でわかれ。また、このブレートのひびきが発生する。また、このブレートのひびきが発生する。

さらに、水平滑ブレートとユーラシアブレートを押しつけるため、その間にひびきが発生する。このひびきが発生する。

水平滑ブレートに押されるがユーラシアブレートがたえられなくなり、われてしまう。(ブレートのはくのせでなく、斜線部のような形でわかれ。) このときには地図が発生する。また、このブレートのひびきが発生する。

地図は、ブレートとよばれる十数個に分かれており、それが複数あります。(日本列島は、ユーラシアブレートの東側に位置する。) 下に地図を押しつけてくるのが津波ブレートや、フィリピン海ブレートが、三つセントメルルの遠であります。このブレートの縦に押すと、津波が発生する。

地図は、ブレートとよばれる十数個に分かれており、それが複数あります。(日本列島は、ユーラシアブレートの東側に位置する。) 下に地図を押しつけてくるのが津波ブレートや、フィリピン海ブレートが、三つセントメルルの遠であります。このブレートの縦に押すと、津波が発生する。

水平滑ブレートを引きこむようにユーラシアブレートを押しつけるため、その間にひびきが発生する。このひびきが発生する。

水平滑ブレートを引きこむようにユーラシアブレートを押しつけるため、その間にひびきが発生する。このひびきが発生する。

理科指導資料イメージ

社会(課題) ⑫情報の活用と伝達(学習対象)
災害時における情報の大切さや入手方法を知り、正確な情報の収集、選択の重要さ、情報発信の方法や影響について理解できるようにする(学習事項)

情報教育関連資料イメージ

**実施(D)段階 4 具体的な教材・資料等
イ「課題対応」型(防災教育)**

必要とした情報の種類

年齢	2	10	25	35	45	60	70	85	95	100%
被災者	34.8	34.8	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7
避難者	34.8	34.8	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7
ライフライン	34.8	34.8	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7
周辺の状況	34.8	34.8	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7

住民の情報入手

(1) 災害時に備えて

か伝えようとしている人のために、安否を伝える放送もしました。その放送が手に入らなかっただけであります。この病院へ

した。また、連絡が途切れ、肉親や知人が無事かどうか心配しているひとや

地震時に活躍したのは、ラジオ局では震災の被害の大きさを報じ、報道では震災の被害の大きさを報じました。その放送が手に入らなかっただけであります。この病院へ

した。また、連絡が途切れ、肉親や知人が無事かどうか心配しているひとや

地震時に活躍したのは、ラジオ局では震災の被害の大きさを報じ、報道では震災の被害の大きさを報じました。その放送が手に入らなかっただけであります。この病院へ

技術(課題) 23身を守る 25生き抜くこと(学習対象)
・水害に直面したとき、自他の命を守り、被害を最小限に止めるための技能を身に付けることができるようにする
・非常に生き抜く知識としてのサバイバルスキルの必要性を理解し、衣食住に関する基本的な技能を身に付ける(学習事項)

防災教育関連資料イメージ

(1) 水害の前兆

水害から身を守るには、事前の準備と落ち着いた行動が大切です。気象情報を十分注意し、早めに避難します。避難勧告がないても、必ずと思われる場合は、勇氣をもってすぐ避難することが大切です。がけ崩れや土石流などの災害が発生するときは、下の図のような前兆必ずあるといわれています。海岸では、台風や高潮に対して、高潮時刻や潮汐にも注意を払うことが大切です。自然の安全を守るために、自然の安全を見逃さないようにします。

自然のサインを見逃さず!

1時間の雨量と降り方

雨量の範囲	雨の降り方
5~10mm	雨音がよく聞こえ、すぐ水たまりができる。
10~20mm	雨音で警笛声よく聞こえないので、地面一面に水たまりができる。
20~30mm	土砂崩れで、けじ崩れの危険がある。
30mm以上	パケを引きかきしたような雨の降り方で、泥棒市では避難警笛に入らなければならぬ。

地震と災害

日本は世界でも有数な地殻変動の多い場所にあります(変動帯)。古くから地震や火山と向き合って人々は暮らしてきました。地震を理解し、地震の被害から身を守るためにはどうしたらよいかを学ぶことは非常に重要なことです。

1 地震とは何か

地震とは、大地に働く力により、地下で岩石が破壊され、岩盤に蓄えられていたエネルギーが、震動として四方に伝わっていく現象です。断層はその破壊の跡です。地震のエネルギーは大きく、建物を破壊したり、大規模な土砂崩れを起こしたり、ときには津波を起こしたりすることもあります。火山活動に伴って起こる場合もあります。



図1 一関本寺地域の断層

(1) 震度

震度とは、地震のゆれが各地でどれだけあったかという目安です。0～7までの10段階(震度5と6にはそれぞれ弱と強の2段階がある)で示されます。震度4以上になると置物が落ちたり、家具が倒れたりする危険度が一層高まります。



図2 2008年岩手宮城内陸地震における橋の崩落（推定震度6強以上）



図3 気象庁による震度と揺れの資料
(気象庁HPより)

(2) マグニチュード M

震源において、どれだけのエネルギーが解放されたかという目安がマグニチュードMです。日本の平均的な地震の総エネルギーは年間 5×10^{19} Jで、単純に考えると、M 6の地震がおよそ 800 回起こることになります。M が 1 大きくなるとエネルギーは約 32 倍大きくなり、2 大きくなると、エネルギーは 1000 倍大きくなります。観測史上最大級のものはおよそ M 9 (1960 年チリ地震 M9.5) で、そのエネルギーは日本でおこる地震の平均的な年間総エネルギーの約 40 倍、世界の地震の年間総エネルギーと比較しても、約 4 倍の大きさをもつことがわかります。

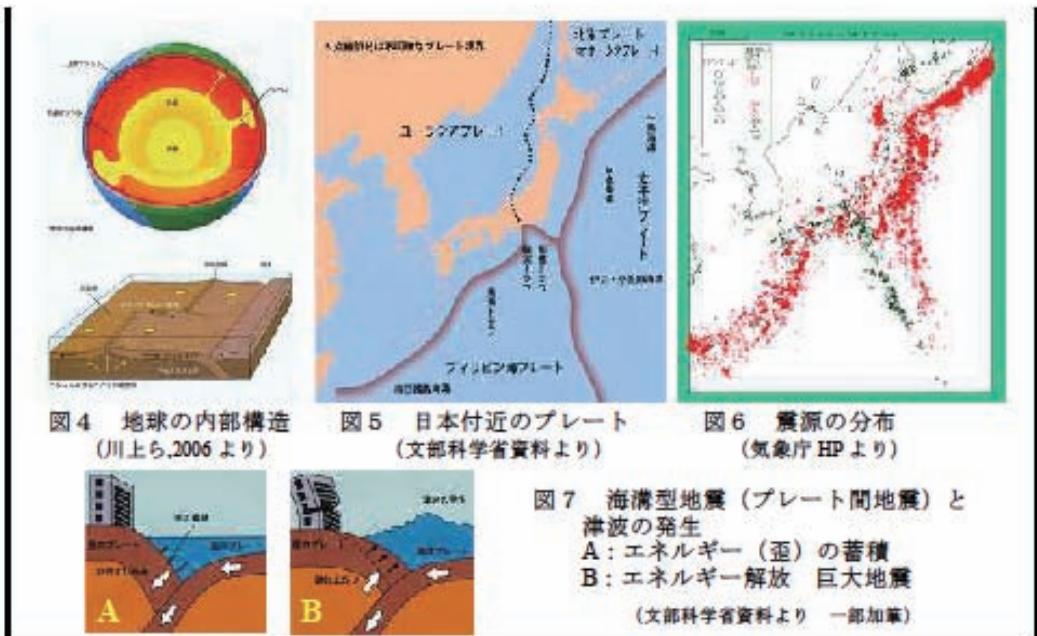
(1 ジュール[J]は、約 100g の物体を 1m持ち上げるのに必要なエネルギーです。)

2 なぜ地震はおきるのか

地球の内部は高温で(中心部で約 6000℃、太陽表面と同じ!)、熱により運動しています。表面の岩盤(プレート、リソスフェアとも呼ばれる)は十数枚にわかれ運動しており、その結果火山活動や地震が発生するのです(図4)。

日本付近には4枚のプレートが存在し(図5)、世界でも有数な地震地帯になっています。地表付近や沈み込む海洋プレートでは破壊が起こりプレート内地震が発生します(図6)。

また、プレート境界付近では、沈み込む海洋プレートが大陸プレートを引きずり込み、エネルギーがたまって一度に反発し、海溝型地震(プレート間地震)が発生します(図7)。海溝型地震は一般に巨大地震とも言われ、M 9以上のものは、超巨大地震といわれます。海溝型地震は、津波を発生させることがあります。



3 地震と災害

(1) 活断層による直下型地震

岩手県には図8のように活断層が分布しています。これらが地震を引き起こすと M 6 ~ M 7 の地震がおこると考えられています。ゆれによる建物の倒壊から身を守ることが必要です。また、地域によっては崖崩れや地盤の液状化現象による被害も発生します。日頃から地域の地質についても知っておくことが大切です。



図8 岩手の活断層
(岩手県総務部資料より)

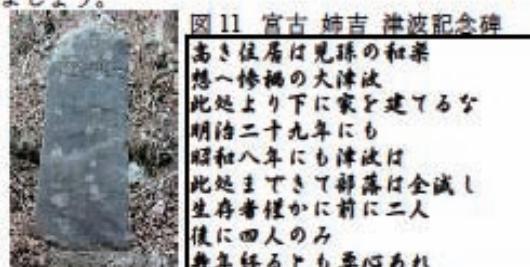
(2) 津波

東北地方には、昔から大きな津波がやってきています。確認できているものでは、869年貞観津波、1611年慶長津波、1896年明治三陸津波、1933年昭和三陸津波(図9)、1960年チリ地震津波、そして2011年東北地方太平洋沖地震津波(図10)など、いずれも多くの被害を生じています。津波は各地の震度が小さくとも、大きな津波が来る可能性があります。また、第1波よりも、第2波、第3波が大きくなったり、第10波以上の津波が来た例もあります。いち早く避難場所(高いところ)に避難し、指示に従い行動することが大切です。図11は宮古市重茂地区の姉吉にある津波記念碑です。1933年昭和三陸津波の後に「此處より下に家を建てるな」と記され建立されました。2011年の津波でも海上高約40mの大津波がこの記念碑のまさにすぐ近くまで襲来しましたが、現地での犠牲者はありませんでした。悲劇を繰り返さないために、私たちも学び行動しましょう。



図9 1933年昭和
三陸津波 田老
(山下,2005より)

図10 2011年東北
地方太平洋沖地震
津波 陸前高田市



【参考文献・引用 Web】・岩手県総務部消防防災課(2000)「岩手の活断層」

- ・川上紳一・東條文治(2006)「地歴史がよくわかる本」・文部科学省(2004)「地震の発生メカニズムを探る」
- ・山下文男(2005)「津波の恐怖－三陸津波伝承録－」・気象庁 HP <http://www.jma.go.jp/>

3_7

指導・支援の評価、改善



「いわての復興教育」スタートガイド

復興教育を位置付けた
教育課程の編成

—指導・支援の評価、改善—



計画(CA)段階

5 指導・支援の評価、改善
児童生徒の学びの実態から、指導支援を評価し、学習活動の促進と指導改善を図る

1 児童生徒の学習状況の評価

目標について、どの程度実現しているか ⇒ 改善
2 学習指導や学習計画の評価
目標を効果的に実現する働きをしているか ⇒ 改善

1児童生徒の学習状況の評価

資質・能力及び態度の見取り
—評価観点の設定—
①学習方法
<視点>課題設定 収集分析 思考判断 表現省察
②自分自身
<視点>意志決定 計画実行 自己理解 将来展望
③他者や社会とのかかわり
<視点>他者理解 協同 共生 社会参画
※OECDが示した主要能力と符合

2学習指導や学習計画の評価

学習指導の評価項目(例)

- 各教師の授業の実施状況
- 教材・教具の活用
- 自主的・自発的な学習の状況
- 個に応じた指導方法等の状況
- 教師間の協力的な指導の状況
- 学級経営の状況
- ICTを効果的に活用した授業の状況
- 基準にのっとり、発達段階に即した指導に関する状況

指導計画の評価項目(例)

- 教育課程の編成・実施の考え方の共通理解の状況・管理の状況
- 観点別学習状況の評価の状況
- 学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進の取組の状況
- 体験活動、学校行事などの管理・実施体制の状況
- 指導体制の整備、授業時数の配当の状況
- 実態を踏まえた、個に応じた指導の計画状況
- 学校間の円滑な接続に関する工夫の状況

30

復興教育では、各学校により、児童生徒に育てようとする資質や能力及び態度も異なることから、それらを踏まえ、評価の観点や評価規準を設定し、評価活動を適切に進めていく必要がある。復興教育の評価には、児童生徒の学習状況の評価はもとより、各学校の指導計画や教師の学習指導の評価も含む。

【児童生徒の学習状況の評価】

児童生徒の学習状況の評価は、学習時間の目標について、どの程度実現しているのかという状況を把握することによって、適切な学習活動に改善するためのものである。また、その結果を外部に説明するためのものである。それには、育てようとする資質や能力及び態度が適切に育まれ、内容が学ばれているのかを、児童生徒の学習状況から丁寧に見取ることが求められる。

評価の観点は、各学校において定めた目標、内容、資質や能力及び態度を踏まえて設定する。本プログラムでは、「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」などの観点を踏まえて設定した資質や能力及び態度に基づいた観点の設定を例示している。

例1 「学習方法」

- 「自分自身」
- 「他者や社会とのかかわり」

例2 「課題設定の力」(学習方法)

- 「情報収集の力」(学習方法)
- 「将来展望の力」(自分自身)
- 「社会参画の力」(他者や社会とのかかわり)

■ 単元の評価の手順

各学校における観点の設定

- (1) 評価の観点の設定
 - 各学校の目標
 - 育てようとする資質・能力・態度
 - 各学校の内容（課題・学習対象・学習項目）を踏まえる。



-
- 例示された評価の観点を参考にする。



-
-
- 各学校で評価の観点を設定する。

↓

単元の評価規準の設定

- (2) 単元の評価規準の設定
 - 観点ごとに単元の評価規準を設定する。
 - 単元の目標、資質・能力や態度及び内容を踏まえ、目指すべき学習状況としての児童生徒の姿を想定し、評価規準として設定する。
 - 力を見取るために評価の場面や方法についても考えておく。

↓

学習状況の評価

例：地域で働く人々の仕事に対する姿勢や願いを通して、職場体験から生じた関心や疑問を探究的に学習する場合の評価規準

【学習方法に関すること】

- ① 地域の人の仕事に対する姿勢や願いを取り材し、その表情やしぐさまで読み取り記録している。
- ② ……

【自分自身に関すること】

- ① ……
- ② 地域の人から学んだことと、収集した十分な資料に基づき、自分の生き方を考えている。

【他者や社会に関すること】

- ① 地域の人に積極的に質問したり、交流を深めている。
- ② ……

【学習指導や学習計画の評価】

学習指導や指導計画の評価とは、教師の学習指導や各学校が作成した指導計画が、目標を効果的に実現する働きをしているのか、それとも改善を図る必要があるのかを評価して明らかにすることである。

復興教育では、期待する教育効果として、「復興を担う人材育成」「震災津波に対応した指導の展開」「震災津波の体験を生かす指導改善」「家庭・地域との連携」が示されている。また、教育内容の見直しの視点として、「ひとづくり」「体験から学ぶ」「組織的・有機的指導」「各校の実情に応じた内容」の4つが取り上げられていることから、これらは学習指導の評価の要所となる。学習指導の評価は、こうした基本的な考え方沿って学習指導が行われているかどうかを、多様な評価情報から吟味し、適切な指導へと改善するためのものである。

復興教育の指導計画の作成は、およそ①全体計画、②年間指導計画、③単元計画、④授業計画、という手順で行われる。

指導計画の評価・改善は、この順序を逆にして行うことと考えればよい。実際に授業を行い、計画と学習活動に取り組む児童生徒の姿との間にズレのあることが明らかになれば、単元計画、年間指導計画、全体計画の修正を検討しなければならない。

児童生徒の思いを汲み取ろうとすれば、教師が事前に立てていた計画とは異なる方向に進んでいくことも珍しくない。児童生徒の意識を踏まえた必然的な計画の修正ならば、児童生徒の目線を大切にした、児童生徒の主体性を發揮する学習活動という面から、充実に向かうものと考えることができ、大事にしたい点である。

【参考文献】

- 『阪神淡路大震災 神戸の教育の再生と創造への歩み』(1996), 神戸市教育委員会
『生きる力』を育む防災教育』(1997), 神戸市教育委員会
『しあわせ はこうぼう 小学校 4・5・6年用』(1997.3), 神戸市教育委員会
『幸せ 運ぼう 中学校用』(1997.3), 神戸市教育委員会
『震災を越えて 教育の創造的復興10年と明日への歩み』(2005.3.31), 兵庫県教育委員会
『釜石市 津波防災教育のための手引き』(2009), 釜石市教育委員会、釜石市市民部防災課、群馬大学災害社会工学研究室
『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』(2010.11), 文部科学省
『実践・カリキュラムマネジメント』(2011.7), 田村知子, ぎょうせい

【表紙背景】

小岩井農場の一本桜